

The Oracle logo is displayed in a bold, red, sans-serif font. A horizontal line is positioned directly below the logo.

ORACLE®

ATG WEB COMMERCE

バージョン 11

Business Control Center ユーザーズ・ガイド

Oracle ATG
One Main Street
Cambridge, MA 02142
USA

ATG Web Commerce Business Control Center ユーザーズ・ガイド

ドキュメントのバージョン

Doc11 BCCUSERv1 04/22/2013

Copyright

Copyright © 1997, 2011, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

This software and related documentation are provided under a license agreement containing restrictions on use and disclosure and are protected by intellectual property laws. Except as expressly permitted in your license agreement or allowed by law, you may not use, copy, reproduce, translate, broadcast, modify, license, transmit, distribute, exhibit, perform, publish, or display any part, in any form, or by any means. Reverse engineering, disassembly, or decompilation of this software, unless required by law for interoperability, is prohibited.

The information contained herein is subject to change without notice and is not warranted to be error-free. If you find any errors, please report them to us in writing.

If this software or related documentation is delivered to the U.S. Government or anyone licensing it on behalf of the U.S. Government, the following notice is applicable:

U.S. GOVERNMENT RIGHTS Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are “commercial computer software” or “commercial technical data” pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle America, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

This software or hardware is developed for general use in a variety of information management applications. It is not developed or intended for use in any inherently dangerous applications, including applications that may create a risk of personal injury. If you use this software or hardware in dangerous applications, then you shall be responsible to take all appropriate fail-safe, backup, redundancy, and other measures to ensure its safe use. Oracle Corporation and its affiliates disclaim any liability for any damages caused by use of this software or hardware in dangerous applications.

Oracle and Java are registered trademarks of Oracle and/or its affiliates. Other names may be trademarks of their respective owners.

Intel and Intel Xeon are trademarks or registered trademarks of Intel Corporation. All SPARC trademarks are used under license and are trademarks or registered trademarks of SPARC International, Inc. AMD, Opteron, the AMD logo, and the AMD Opteron logo are trademarks or registered trademarks of Advanced Micro Devices. UNIX is a registered trademark licensed through X/Open Company, Ltd.

This software or hardware and documentation may provide access to or information on content, products, and services from third parties. Oracle Corporation and its affiliates are not responsible for and expressly disclaim all warranties of any kind with respect to third-party content, products, and services. Oracle Corporation and its affiliates will not be responsible for any loss, costs, or damages incurred due to your access to or use of third-party content, products, or services.

For information about Oracle's commitment to accessibility, visit the Oracle Accessibility Program website at <http://www.oracle.com/us/corporate/accessibility/index.html>.

Oracle customers have access to electronic support through My Oracle Support. For information, visit <http://www.oracle.com/support/contact.html> or visit <http://www.oracle.com/accessibility/support.html> if you are hearing impaired.

目次

1	はじめに	1
	このマニュアルの内容	1
	Business Control Center のインストールと開始	2
	データベースの設定	2
	ログイン要件	2
	Business Control Center の開始	3
	ACC のサポート	3
2	Business Control Center のユーザー・インタフェース	5
	Business Control Center ホームページ	5
	プロジェクトの基本	7
	プロジェクトの作成	7
	プロジェクトへのアセットの追加	8
	プロジェクトからのアセットの削除	9
	作成プロセスの完了とアセットの配置	10
	既存のプロジェクトを開く	12
	「検索」アイコンの使用	13
	アセットのプロパティの編集	14
	アセット・ピッカーによる項目の選択	15
	アセット・ピッカー: 「参照」タブ	16
	アセット・ピッカー: 「検索」タブ	16
	プロジェクト・アセットのプレビュー	19
	複数のプレビュー・セッションの起動	20
	プレビュー・セッションでのプレビュー・ユーザーの変更	20
	Business Control Center の外部でのプレビュー・セッションの起動	21
3	ターゲット設定の概念	23
	ターゲット設定インタフェース	23
	ターゲット設定項目の表示	25
	フォルダの操作	26
	親フォルダの変更	26

フォルダの作成	28
セグメントまたはコンテンツ・グループのフォルダの削除	28
複数サイトのパーソナライズおよびターゲット設定	28
複数サイト・ルールが評価される方法	29
複数サイト・ルールのタイプ	29
サイト上書きルールの作成	29
サイト・グループ上書きルールの作成	30
表示対象フィルタの作成	31
4 ユーザー・セグメント	35
ユーザー・セグメントの作成	35
ユーザー・セグメント・ルールの定義	37
複数サイト環境でのユーザー・セグメント・ルールの定義	39
複数サイト・ユーザー・セグメントの例	40
ユーザー・セグメントの削除	41
5 コンテンツ・グループ	43
コンテンツ・グループの作成	43
コンテンツ・グループ・ルールの定義	45
コンテンツ・グループ内のコンテンツの定義	45
複数サイト環境でのコンテンツ・グループ・ルールの定義	47
単一サイト環境からのコンテンツ・グループ・ルールの再利用	48
複数サイト・コンテンツ・グループの例	48
コンテンツ・グループの削除	49
6 コンテンツ・ターゲット設定機能	51
ターゲット設定機能の作成	52
ターゲット設定機能ルールの定義	53
ターゲット設定機能のビジネス・ルールの定義	53
コンテンツ条件の設定	54
対象個人条件の設定	57
日時条件の設定	59
環境条件の設定	61
複数のルール・セットの作成および優先順位付け	63
複数サイト環境でのターゲット設定機能ルールの定義	64
複数サイト・ターゲット設定機能の例	64
索引	69

1 はじめに

Oracle Commerce Business Control Center は、Oracle Commerce ベースの Web サイトを設定し、保守するために必要な多くの要素の、作成および編集に使用されるブラウザベースのインタフェースです。Business Control Center で実行できるアクティビティは、大きく次の 2 つに分けられます。

- ATG Content Administration アクティビティ。Business Control Center は、Web サイト・コンテンツの作成や配置など、ATG Content Administration タスクを実行するための主要なインタフェースです。
- Oracle Commerce Personalization アクティビティ。Business Control Center を使用して、パーソナライズされた Web サイト・コンテンツ (サイト訪問者ごとに動的に変化するコンテンツ) の配信を処理するコンポーネントを作成および管理します。これらのコンポーネントには、ユーザー・プロファイル、組織、ロール、ユーザー・セグメント、コンテンツ・ターゲット設定機能およびコンテンツ・グループが含まれます。

Business Control Center は、Oracle Commerce Merchandising や Site Administration ユーティリティなど、様々な Oracle Commerce アプリケーションを起動する基点としても使用されます。

注意: シナリオ、スロットおよびワークフローは、Business Control Center では管理されません。これらの項目を作成および編集するには、ATG Control Center を使用します。詳細は、『[ATG Web Commerce パーソナライゼーション・ガイド](#)』を参照してください。

このマニュアルの内容

このマニュアルには次の 2 つの目的があります。

- Business Control Center のインタフェースを示し、このインタフェースを使用するすべてのアプリケーションに共通なタスクの実行方法について説明します。これらのタスクには、UI のナビゲート、バッチ編集の実行、「検索」タブなどの要素の使用が含まれます。
- Oracle Commerce Business Control Center を使用して、ユーザー・セグメント、コンテンツ・ターゲット設定機能およびコンテンツ・グループを作成および管理する方法について説明します。これらは、動的コンテンツを表示する Web サイトを設定するために使用する、Oracle Commerce Personalization の機能です。

次のトピックは、Oracle Commerce ドキュメント・セット内の他のマニュアルに記載されています。

トピック	参照先
ユーザー・プロファイル、組織およびロールの管理	ATG Web Commerce Business Control Center Administration and Development Guide

ATG Content Administration タスクの実行(プロジェクトの作成、Web サイト・アセットの配置の管理など)	ATG Web Commerce コンテンツ管理ガイド
Business Control Center を使用したアプリケーション固有のアクティビティの実行(Oracle Commerce Merchandising へのアクセスなど)	各 Oracle Commerce アプリケーションのドキュメント・セット

Business Control Center のインストールと開始

インストールに ATG Content Administration も含まれている場合は、Oracle Commerce Core プラットフォームの一部として Business Control Center が自動的にインストールされます。詳細は、『[ATG Web Commerce Installation and Configuration Guide](#)』を参照してください。

データベースの設定

通常は、データベースを Oracle Commerce 製品で使用できるようにするために、いくつかの構成手順を実行する必要があります。手順は、『[ATG Web Commerce Content Administration Programming Guide](#)』に記載されています。Personalization インタフェースで使用するビュアー・マッピング・データをインポートするには、importDPSUI スクリプトを実行する必要があることに特に注意してください。

ログイン要件

Business Control Center にログインし、内部の特定の領域にアクセスするには、次のユーザー設定が必要です。

- Business Control Center の「内部ユーザー」インタフェースで定義された内部ユーザー・プロファイル。アプリケーションにログインすると(次を参照)、ユーザー名とパスワードの入力を求められます。入力する値は、ユーザー・プロファイルで指定されているログイン名とパスワードです。デフォルト・プロファイルが用意されています。「[Business Control Center の開始](#)」を参照してください。
- ATG Portal ロール(たとえば、100001-member)。このロールは、Business Control Center フレームワークへのアクセスに必要です。ATG Portal ロールは、「内部ユーザー」インタフェースを通じて割り当てられます。この場合、デフォルトでは、適切なロールは「グローバル・ロール」→ルート・フォルダ→Bizui ディレクトリに置かれます。持っているのがこのロールのみの場合、Business Control Center の「ユーザー」オプションにはアクセスできませんが、他のオプションにはアクセスできません(「[Business Control Center ホームページ](#)」を参照)。
- ATG Content Administration ロール(たとえば、EPub-User または EPub-Manager)。これらも、Business Control Center の「内部ユーザー」インタフェースを通じてユーザー・プロファイルに追加されます。このロールがなくても Business Control Center を開始できますが、プロジェクトを含めて、すべての ATG Content Administration 機能にアクセスするには、このロールが必要です。Business Control Center で操作するターゲット設定機能ではプロジェクトが使用されるため、操作を行うにはこのロールが必要です。このロールがない場合、ホームページに「Targeting およびセグメンテーション」オプションが表示されません。

- Web ブラウザ。Business Control Center は様々なブラウザおよびオペレーティング・システムをサポートしています。詳細は、My Oracle Support ナレッジ・ベース (<https://support.oracle.com/>) の "Oracle Commerce Supported Environments Matrix [ID 1345041.1]" ドキュメントを参照してください。

Internet Explorer を使用して Business Control Center を表示している場合は、ブラウザの「ツール」→「互換表示」オプションを有効にして、正しい動作が行われるようにする必要があります。詳細は、『[ATG Web Commerce Multiple Application Integration Guide](#)』の Internet Explorer と ATG アプリケーションに関する項を参照してください。

Business Control Center の開始

Business Control Center にアクセスするためには、Oracle Commerce 製品が構成されていて実行中である必要があります。サポートされるデータベースを構成する必要もあります。詳細は、『[ATG Web Commerce Installation and Configuration Guide](#)』を参照してください。

1. データベースと Oracle Commerce アプリケーションが起動していることを確認してください。
2. Business Control Center が実行されているサーバーに Web ブラウザでアクセスします。URL は次の形式です。

```
http://hostname:port/atg/bcc
```

ここで、hostname はサーバーの名前、port はサーバーが Business Control Center 用に使用するポートの番号です。

```
http://anycorp.androcles:8080/atg/bcc
```

ローカル・マシンで Business Control Center を実行する場合は、次の URL を入力します。

```
http://localhost:port/atg/bcc
```

Oracle WebLogic、JBoss および IBM WebSphere のデフォルトのポート番号は、それぞれ 7001、8080 および 9080 です。詳細は、『[ATG Web Commerce Installation and Configuration Guide](#)』を参照してください。

3. Business Control Center ログイン・ダイアログ・ボックスが表示されたら、Oracle Commerce ユーザー・プロファイルで定義されているログイン名とパスワードを入力します。フィールドは大文字と小文字を区別します。

ACC のサポート

Web ベースの Business Control Center は、以前のバージョンの ATG プラットフォームで使用されていた ACC インタフェースに代わるものです。ACC は、Oracle Commerce でも使用できます。これを使用すると、このマニュアルに記載されている Personalization コンポーネントを編集できますが、次の制限があります。

- ACC で作成したコンテンツ・ターゲット設定機能およびコンテンツ・グループは、Business Control Center で開いて編集できます。ただし、Business Control Center でこれらの項目を編集すると、それ以降、ACC で編集できなくなります。
- 複数サイト (Oracle Commerce 製品の 1 つのインスタンスを使用して複数の Web サイトを実行する環境) をサポートするように、コンテンツ・ターゲット設定機能およびコンテンツ・グループを構成できます。しかし、ACC ではこれらの項目の複数サイト機能は使用

できません。複数サイトをサポートするには、Business Control Center を通じてこれらの項目を管理します。

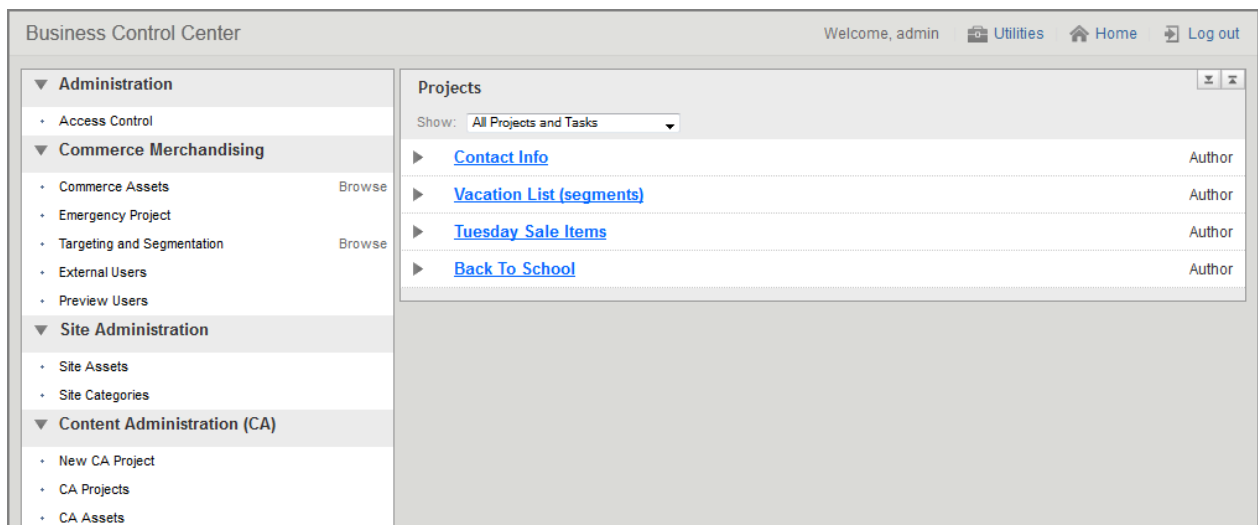
- ユーザー・プロフィール、組織およびロールは、Business Control Center と ACC のどちらでも作成および編集できます。ただし、Business Control Center インタフェースの使用をお勧めします。
- Business Control Center には ATG Content Administration が必要です。Oracle Commerce 製品スイートに ATG Content Administration が含まれていない場合、このマニュアルに記載されているコンポーネントを作成および編集するには、引き続き ACC を使用する必要があります。『[ATG Web Commerce パーソナライゼーション・ガイド](#)』を参照してください。
- スロット、シナリオおよびワークフローは、ACC で作成および編集する必要があります。

2 Business Control Center のユーザー・インタフェース

この章では、Business Control Center のユーザー・インタフェースについて説明します。基本のナビゲーションについて説明し、Business Control Center フレームワークを使用するすべてのアプリケーションに共通な UI の要素を操作する方法について説明します。

Business Control Center ホームページ

Business Control Center にログインすると、次の図のようなホームページが表示されます。



- 上部の「ようこそ」バーには、ログインしているユーザーの名前（ユーザー・プロフィール内の姓と名のプロパティの値）が表示されます。
- 「ユーティリティ」メニューには、Oracle Commerce 製品ドキュメントへのリンクが含まれています。
- 「ホーム」リンクをクリックすると、Business Control Center の別の場所からこのページに戻ります。
- 「ログアウト」リンクをクリックすると、Business Control Center セッションが終了します。

- 「プロジェクト」パネルには、システム内で作成された ATG Content Administration プロジェクトが表示されます。プロジェクトの使用に関する総合的な情報は、『[ATG Web Commerce コンテンツ管理ガイド](#)』を参照してください。
- 「操作」リストは、使用可能な Oracle Commerce アプリケーションの編集インタフェースへの移動に使用するオプションで構成されています。次の条件に応じて、オプションはそれぞれ異なります。
 - ロールがその使用権限を持っているオプション。
 - サーバー上で実行されている Oracle Commerce モジュールおよびアプリケーション。

▼ Administration	
• Access Control	
▼ Commerce Merchandising	
• Commerce Assets	Browse
• Emergency Project	
• Targeting and Segmentation	Browse
• External Users	
• Preview Users	
▼ Site Administration	
• Site Assets	
• Site Categories	
▼ Content Administration (CA)	
• New CA Project	
• CA Projects	
• CA Assets	
• CA Console	
▼ Oracle Commerce Tools	
• Workbench	↗

プロジェクトの基本

セグメント、ターゲット設定機能およびコンテンツ・グループに加えて、Merchandising のようなアプリケーションにおける製品イメージ、価格表、SKU など、Business Control Center 内で作成する多くの項目は、サイトの実行に必要な他の項目とともに、ライブ・サイトに公開する必要があります。このような必要な項目には、コンテンツの個々の要素、イメージ、スタイル・シートおよび Web ページ自体が含まれます。開発環境からライブ・サイトへのアセットの公開のプロセスは、ATG Content Administration で管理されます。Business Control Center で項目を作成および編集する際に理解しておく必要があるいくつかの重要な ATG Content Administration 用語を、次に示します。

- **プロジェクト:** ATG Content Administration では、Web サイトに公開される項目のライフサイクルを、プロジェクトと呼ばれるエンティティを通じて制御します。プロジェクトは、ライフサイクルの作成および公開のステージを定義する一連の**タスク**で構成されます。通常、タスクには作成、承認および配置が含まれます。タスクはそれぞれ異なるユーザーが実行できます。たとえば、承認タスクはスーパーバイザーが実行し、配置タスクは Web サイト管理者が実行できます。

多くの場合、プロジェクトは、特定のビジネス目標に関連する項目の論理的なグループに相当します。たとえば、サイトのホームページを作成するために必要なすべての項目が含まれる、「New home page」というプロジェクトがあります。これとは別に、会社情報のページに更新された役員の略歴を配置するための「Executive bios」というプロジェクトもあります。1 つのプロジェクトで管理および配置できる項目数に制限はありません。

- **アセット:** ATG Content Administration で作成、編集および配置する項目はすべて、アセットと呼ばれます。ATG アプリケーションごとに、アセットのタイプが異なります。たとえば、Merchandising アセットには、製品、SKU および価格表が含まれます。Personalization アセットには、ユーザー・セグメント、ターゲット設定機能およびコンテンツ・グループが含まれます。Business Control Center インタフェースの様々な場所で、これらの項目を表す総称としてアセットが使用されます。
- **バージョン設定:** ATG Content Administration は、アセットの作成および配置の管理に加えて、バージョン設定と呼ばれる一種のソース管理を各アセットで行います。アセットを作成すると、そのアセットには番号 1 が与えられます。自分や他のユーザーがこのアセットを編集すると、2 番目のバージョンが作成され、バージョン 1 および 2 が両方ともシステムに格納されます。この動作には 2 つの目的があります。1 つは、2 人以上のユーザーが同じアセットを編集する際の競合を回避することです。もう 1 つは、いつでも以前のバージョンのアセットに戻ることで、エラーから回復できることです。

これらの用語の詳細およびバージョン設定と配置の詳細は、『ATG Web Commerce コンテンツ管理ガイド』および『ATG Web Commerce Content Administration Programming Guide』を参照してください。

プロジェクトの作成

ターゲット設定アセットについてこのマニュアルの後の項に記載されているように、アセットを作成する場合は、最初に、項目の作成、バージョン設定および配置を管理するプロジェクトを指定します。次の図は、プロジェクトを作成するときに使用するフィールドを示しています。「ホーム」ページで「Targeting およびセグメンテーション」オプションを選択すると、このダイアログ・ボックスが表示されます。

Content Administration (CA) Welcome, Admin User Utilities Home Log out

Start a New Project - New CA Project

Please complete the fields below to name your project. Once the project is started, you will be taken to the project details page, where you can assign the tasks for this project to people or choose the assets to change.

Project Name: Vacation list (segments)

Project Description: User segments for vacation content|

Continue Cancel

この画面に入力するには、次の手順に従います。

1. プロジェクトの名前と概要を入力します。名前は、ホームページ上の「プロジェクト」リストなど、UI の様々な場所でプロジェクトを識別するために使用されます。システム内の他のプロジェクトと区別できるように、わかりやすい名前を付けてください。ただし、プロジェクト名が一意である必要はありません。概要は省略できますが、似た名前のプロジェクトが多数ある場合に役立ちます。
2. 終了したら、「続行」をクリックします。

この時点で、プロジェクトの「作成者」タスクがアクティブになり、アセットの作成を開始できます。ターゲット設定項目については、このマニュアルの後の項に作成プロセスの詳細が記載されています。

- [ユーザー・セグメント](#)
- [コンテンツ・グループ](#)
- [コンテンツ・ターゲット設定機能](#)

他のタイプのアセットについては、それらを管理する ATG アプリケーションのドキュメントを参照してください。プロジェクトの詳細は、『[ATG Web Commerce コンテンツ管理ガイド](#)』を参照してください。

プロジェクトへのアセットの追加

Business Control Center で作成または編集するアセットの多くは、バージョン設定および配置できるように、プロジェクトに追加する必要があります。現在のプロジェクトに追加されているアセットを表示するには、次に示すように「プロジェクト」タブを表示します。



たとえばユーザー・セグメントなどのアセットを作成すると、アセットは現在のプロジェクトに自動的に追加され、「プロジェクト」タブの中でアセットの横に「新規」というラベルが表示されます。新規アセットは、このプロジェクトの「参照」タブにも表示されます。アセットは、プロジェクトが配置されるときに、ライブ Web サイトに公開されます。アセットはバージョン設定システムにも追加されます。

既存のアセットの追加または変更

既存のアセットをプロジェクトに追加することもできます。これを行うには、「参照」タブでアセットを検索してそのチェック・ボックスを選択し、「プロジェクトに追加」アイコンをクリックします。「プロジェクト」タブにアセットが表示され、プロジェクトが配置されるときに、アセットがライブ・サイトに公開されます。

必要に応じて、既存のアセットを変更できます。これを行うには、「参照」タブでアセットをハイライトして、その詳細を右側の「一般」タブと「ルール」タブに表示します。必要な変更を行い、「保存」をクリックします。アセットは自動的にプロジェクトに追加され、プロジェクトが配置されるときに、新バージョンのアセットがバージョン設定システムに追加されます。

注意: プロジェクトの一部としてアセットを作成する場合は、バージョン設定システムにアセットがチェックインされるまで、他のプロジェクトの「参照」タブにアセットは表示されません。チェックインは通常、プロジェクトが配置されるとき（「配置」タスクが完了するとき）に発生します。詳細は、『[ATG Web Commerce コンテンツ管理ガイド](#)』を参照してください。

プロジェクトからのアセットの削除

プロジェクトからアセットを削除するには、「プロジェクト」タブを表示し、削除するアセットを選択し、前述の図に示されている「変更を元に戻してプロジェクトから削除」アイコンをクリックします。すべてのアセットを選択して削除するには、アイコン・バーのチェック・ボックスを選択します。

新規とマークされているアセットを削除すると、そのアセットはシステムから単に削除されます。このプロジェクトの一部として変更したアセットを削除すると、変更が破棄されてアセットがプロジェクトから削除されます。システムには、以前のバージョンのアセットが引き続き存在します。

システムから既存のアセットを削除する方法の詳細は、『[ATG Web Commerce コンテンツ管理ガイド](#)』を参照してください。

作成プロセスの完了とアセットの配置

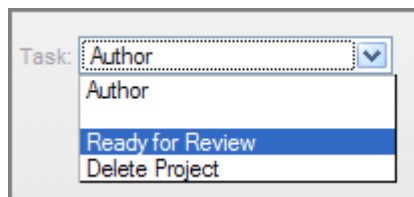
プロジェクトのアセットの作成が終了したら、次のステージ(通常は「コンテンツ・レビュー」タスク)を開始できるように、「作成者」タスクが完了したことを指定する必要があります。どのプロジェクトも配置が最後のタスクです。他のすべてのタスクが完了した場合のみ、アセットをライブ・サイトに配置できます。

ターゲット設定項目に対して使用されるデフォルトのプロジェクトは、次のタスクからなります。

- 作成者
- コンテンツ・レビュー
- 実稼働環境配置の承認
- 実稼働環境配置の完了待ち
- 実稼働環境配置の検証
- 実稼働環境の配置が元に戻るまで待機

注意: ATG 環境で、実稼働サイトに加えてステージング・サイトが使用されている場合は、ステージングへの配置を行うための類似の一連のタスクが表示に含まれます。詳細は、『[ATG Web Commerce Content Administration Programming Guide](#)』を参照してください。

「作成」タスクが完了したことを指定するには、次の図に示すように、「タスク」メニューから「レビュー可能」を選択します。



「コンテンツ・レビュー」タスクがアクティブになります。この時点で、ターゲット設定インターフェースから、ATG Content Administration に含まれるプロジェクト・インターフェースに移動します。

Content Administration (CA) Welcome, Admin User [Utilities](#) [Home](#) [Log out](#)

Project : Vacation types (segments)
 « Available projects

This is the project details page, where you can look at and change the tasks, assets, and notes/history items associated with a project.

Project Status: **Active**

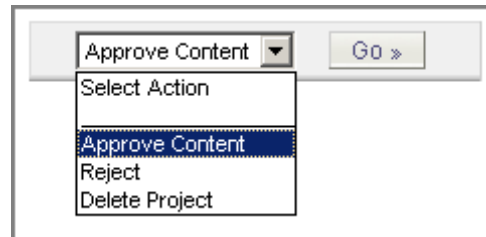
Tasks | Assets | History | Lock Conflicts

Project Name: Vacation types (segments)
 Type of project: Content Administration Project
 Start Date: 12/20/2013 2:42 PM
 Created by: Admin User

Tasks for Vacation types (segments)

Content Administration Project Tasks	Owner	Actions
Author	Unassigned <input type="button" value="Assign"/>	
Content Review	Unassigned <input type="button" value="Assign"/>	Select Action <input type="button" value="Go »"/>
Approve for Production Deployment	Unassigned <input type="button" value="Assign"/>	
Wait for Production Deployment Completion		
Verify Production Deployment	Unassigned <input type="button" value="Assign"/>	
Wait for Production Revert Deployment Completion		

自分または他のユーザーによるプロジェクト内のアセットのレビューが終了したら、次に示すように、「処理の選択」メニューから「コンテンツの承認」を選択して、「コンテンツ・レビュー」タスクが完了したことを指定します。次に、「進む」をクリックします。



「コンテンツの承認」タスクが完了すると、次の「実稼働環境配置の承認」タスクの「処理」フィールドが表示されます。

配置タスクの詳細は、『[ATG Web Commerce Content Administration Programming Guide](#)』に記載されています。その基本的な実行手順は、次のとおりです。

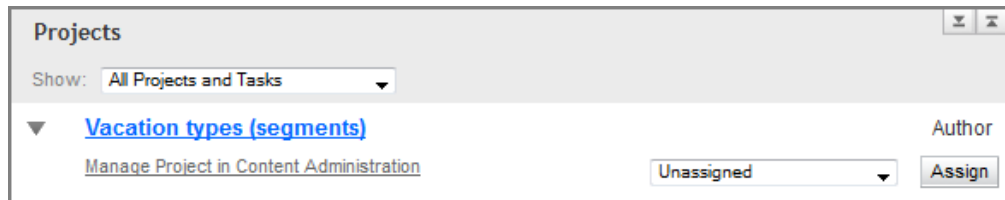
1. 「承認および実稼働環境への配置」を選択して、「実稼働環境配置の承認」タスクを完了します。
2. 「実稼働環境配置の検証」タスクがアクティブになる（「処理」フィールドが表示される）のを確認します。場合によっては、ページをリフレッシュしてこのフィールドを表示する必要があります。
3. 配置が終了すると、「実稼働環境配置の検証」タスクがアクティブになります。「処理」リストから「実稼働環境配置の受入」を選択し、「進む」をクリックします。

既存のプロジェクトを開く

1つのセッション内で「作成者」タスクを完了する必要はありません。「作成者」タスクが完了とマークされないかぎり、いつでもプロジェクトに戻ってアセットを追加または作成できます。

既存のプロジェクトを検索して開くには

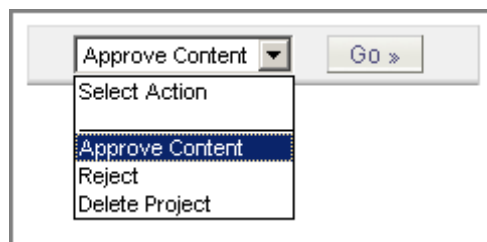
1. 「ホーム」ページを表示します。
2. 「プロジェクト」リストで、該当の「表示」オプション（「すべてのプロジェクトおよびタスク」など）を選択します。これらのオプションの詳細は、『[ATG Web Commerce コンテンツ管理ガイド](#)』を参照してください。
3. プロジェクトを開きます。
 - プロジェクトをその関連 UI で開くには、プロジェクト名をクリックします。この例では、プロジェクト名 **Vacation list (segments)** をクリックすると、プロジェクトが「ターゲット設定およびセグメンテーション」で開きます。
 - プロジェクトを Content Administration で開くには、このプロジェクトのエントリを展開し、「Content Administration 内のプロジェクトの管理」をクリックします。



リンクがアクティブであるためには、タスクが自分に割り当てられているか、未割当てとマークされている必要があります。タスクの割当ての詳細は、『[ATG Web Commerce コンテンツ管理ガイド](#)』を参照してください。

注意:

- プロジェクトが「作成者」タスクを超えて「コンテンツの承認」タスクに移動すると、アセットを編集できなくなります。「作成者」タスクを再びアクティブにしてアセットを編集できるようにするには、「コンテンツの承認」タスクの「処理の選択」メニューから「否認」を選択し、「進む」をクリックします。



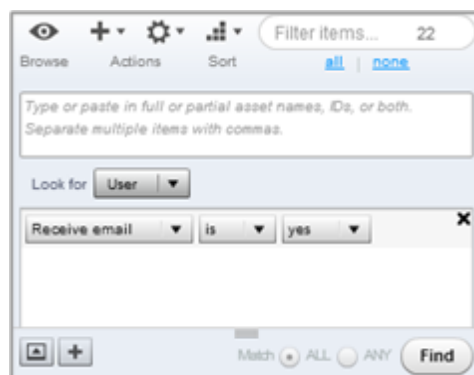
- いずれかの配置タスク（「実稼働環境配置の承認」など）がアクティブの場合、アセットを編集することはできません。この場合に「作成者」タスクを再びアクティブにするには、「処理の選択」メニューから対応する「否認」オプションを選択し、「作成者」タスクが再びアクティブになるまで、各タスクでこのオプションの選択を続けます。
- プロジェクトを削除するには、「作成者」タスクまたは「コンテンツ・レビュー」タスクの「処理」メニューから「プロジェクトの削除」を選択します。プロジェクトを削除すると、このプロ

プロジェクトに対して作成されたアセットはバージョン設定システムに追加されず、このプロジェクトを通じて既存のアセットに対して行われた変更が新バージョンとしてシステムに保持されることはありません。詳細は、『[ATG Web Commerce コンテンツ管理ガイド](#)』を参照してください。

「検索」アイコンの使用

ユーザー、組織およびロール・インタフェースで特定の項目を検索および表示するには、「検索」アイコンを使用します。たとえば、「Eメールの受信」プロパティが現在「はい」に設定されているすべてのユーザー・プロフィールを検索するには、次の操作を行います。

1. 「ホーム」をクリックします。
2. 「Commerce Merchandising」の下の「外部ユーザー」をクリックします。
3. 「検索」アイコンを表示します。
4. アセット・タイプが「ユーザー」（または必要に応じてプロフィールのサブタイプ）に設定されていることを確認します。
5. 次の図に示す値を入力し、「検索」をクリックします。



表示が変わり、基準に一致するプロフィールが示されます。「参照」タブを通じて行う場合と同様に、プロフィールを表示および編集できます。

「検索」タブで基準を指定する方法の詳細は、「[アセット・ピッカーによる項目の選択](#)」を参照してください。

注意: プロフィール、組織およびロールの作成または編集の詳細は、『[ATG Web Commerce Business Control Center Administration and Development Guide](#)』を参照してください。

バッチ編集の実行

ここで説明する手順を使用すると、1つ以上のアセット・プロパティを編集し、その編集をアセットのグループに適用できます。たとえば、管理者がこの手順を使用すると、システム内のすべてのプロフィールの「Eメールの受信」プロパティを「いいえ」に変更できます。

変更するアセットを「複数編集」タブに追加します。

変更を適用するアセットを選択します（複数のバッチ編集を実行するときに、そのうちのいくつかは、タブに追加したすべてのアセットに適用する必要がない可能性があります。この手順が存在するのは、そのような

場合に編集を簡単に行うためです)。タブのすべてのアセットを選択するには、アイコン・バーのチェック・ボックスを使用します。

「すべてに適用」アイコンをクリックし、編集するプロパティが含まれているプロパティのグループを選択します。

注意: システムでプロパティ・グループが定義されていない場合は、「このタイプのプロパティ・グループが存在しません...」というメッセージが表示されます。プロパティ・グループを設定する方法については、『[ATG Web Commerce Business Control Center Administration and Development Guide](#)』を参照してください。

変更するプロパティを検索し、編集します。

「既存の値を保持」フィールドをクリックし、新しい値を選択することによって、該当のプロパティを編集します。

「すべてに適用」をクリックします。表示が変わり、影響を受けたアセット数が示されます。

「成功」リストには、変更されたすべてのアセットが表示されます。左ペイン内のこれらのアセットの横には緑色のチェックマークも表示されます。

「失敗」リストには、編集中に 1 つ以上のエラーが発生したために変更されなかったアセットが表示されます。

「変更は不要です」リストには、編集したプロパティにすでに新しい値が設定されていたために変更されなかったアセットが表示されます。

「変更なし」リストには、**Business Control Center** で別のタスクを開始したときに編集に割り込みがあったために変更されなかったアセットが表示されます。

左ペインでは、「失敗」、「変更は不要です」または「変更なし」のアセットの横に赤色の X マークが表示されます。

アセットの現在のプロパティ値を表示するには、「詳細」ペインのいずれかのステータス・ボックスでその名前をクリックします。「失敗」ボックスのアセットについては、アセットが変更されなかった理由に関する情報も表示されます。

「終了」をクリックします。編集パネルが消えます。

Business Control Center で別のアクティビティを続行する前に、「複数編集」タブからアセットを削除する必要があります。ただし、「ホーム」ページを通じて新しいアクティビティを開始するまで、「複数編集」には引き続きアセットが追加されているので注意してください。タブからアセットを削除するには、アセットを選択し、「削除」アイコンをクリックします。

アセットのプロパティの編集

値を入力する方法は、操作しているプロパティのタイプによってそれぞれ異なります。ここでは、複数の値が含まれるプロパティのコントロールなど、いくつかの複雑なプロパティ・コントロールについて説明します。

- プロパティによっては、次に示す「選択」ボタンと「作成」ボタンが含まれています。



これらのボタンは、プロパティの値が、別のリポジトリ項目タイプとその独自のプロパティである場合にのみ表示されます。たとえば、自宅所在地プロパティは、連絡先情報というリポジトリ項目タイプと、所在地、都道府県および郵便番号の各プロパティにリンクされています。

る可能性があります。必須タイプの新しい項目(連絡先情報項目など)を作成するには、「作成」ボタンを使用します。既存の項目を選択するには、「選択」ボタンを使用します。

前述の図に示されているように、青色で表示されるプロパティ値をクリックすることによって、既存のエントリを編集できます。ただし、ここでプロパティを編集すると、基礎となるリポジトリ内の項目が変更され、この項目が使用されるすべての場所(たとえば、他のユーザー・プロファイル内)でその変更が適用されるので注意してください。

既存のエントリを削除するには、「消去」アイコンをクリックします。

注意: リンクされているリポジトリ項目のプロパティが空の場合は、次に示すように、リポジトリ項目の ID が値として表示されます。

- プロパティによっては、複数の値を含むことができます。

新しい項目を作成してリストに追加するには、「新規追加」ボタンを使用します。項目がシステムに追加され、他の画面で使用できます。自分または他のユーザーによってすでに作成済の項目を追加するには、「既存の追加」ボタンを使用します。

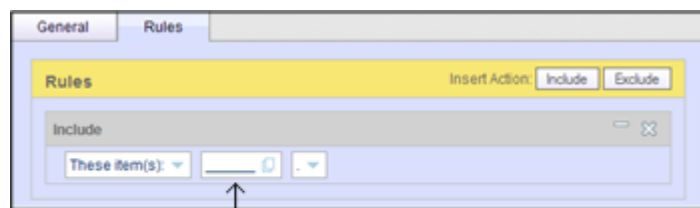
リストから項目を削除するには、その項目の「項目の削除」アイコンをクリックします。ここで項目を削除しても、システムからその項目が削除されることはありません。

- 必須プロパティの名前の横にはアスタリスクが表示されます。必須プロパティがまだ指定されていない場合、新規アセットを保存することはできません。

アセット・ピッカーによる項目の選択

ターゲット・アセットを作成および編集するプロセスの中で、アセット・ピッカーの使用が必要になることがあります。これは、現在のアクティビティに含める 1 つ以上の項目を検索して選択できるダイアログ・ボックスです。たとえば、コンテンツ・グループを定義するルールを作成しているときに、「Items in folder(s)」オプションを使用して特定のフォルダから項目を含める場合は、アセット・ピッカーを使用してフォルダを選択します。

アセット・ピッカーを表示するには、次に示すように、指定の項目を表示する必要があるフィールドをクリックします。

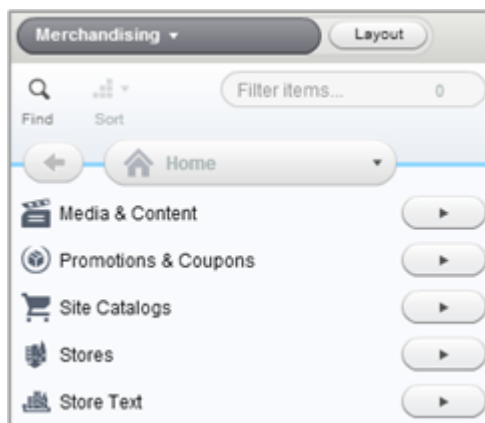


クリックして
アセット・ピッカーを表示

アセット・ピッカーの外観は操作している項目のタイプによってそれぞれ異なりますが、基本の使用手順は同じです。次の「アセット・ピッカー: 「参照」タブ」および「アセット・ピッカー: 「検索」タブ」を参照してください。

アセット・ピッカー: 「参照」タブ

一部の項目タイプは、「参照」タブで検索できるように構成されています。項目はフォルダの階層で表示されます。次の図は、「参照」タブを示しています。



必要な項目が表示されるまで、フォルダを展開します。

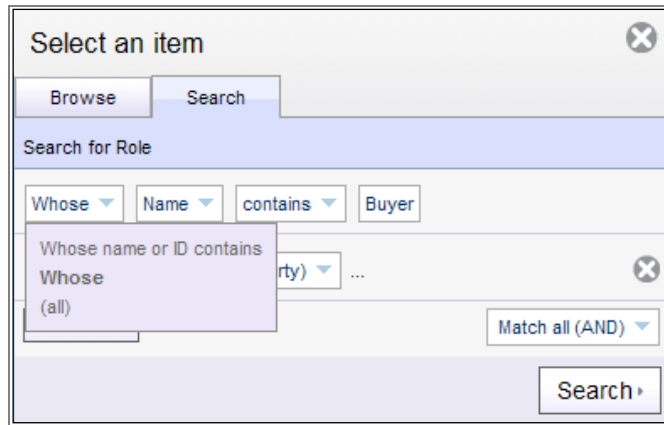
アセット・ピッカー: 「検索」タブ

アセット・ピッカーに「検索」タブが含まれている場合は、検索基準を指定して項目を検索できます。問合せに一致するすべての項目からなるリストが表示されます。

目的のタイプのすべてのアセットを検索するには、「すべて」を選択します。




特定のプロパティを問い合わせることによって、検索を絞り込むことができます。メニュー項目は、アセットのタイプによって異なります。この例の場合は、「Whose」または「Whose Name or ID Contains」です。



次の図は、Name プロパティに Buyer という文字列が含まれるすべてのロールを検索する問合せを示しています。

「基準の追加」をクリックして目的のロールに関する情報をさらに指定することによって、検索基準を絞り込むことができます。複数の基準を作成する場合は、必要に応じて問合せ演算子の「すべて一致(AND)」または「いずれかに一致(OR)」を指定します。

一連の基準を削除するには、対応する「削除」 アイコンをクリックします。

プロジェクト・アセットのプレビュー

Business Control Center 環境を設定してプロジェクト・アセットをプレビューすることで、プロジェクト・アセットがライブ Web サイトでどのように表示されるかを評価できます。アセットをプレビューするには、Business Control Center サーバーおよび必要に応じて他のサーバーを、『[ATG Web Commerce Business Control Center Administration and Development Guide](#)』のプレビューの設定に関する項に従って構成および作成する必要があります。

アセットは、Asset Manager または ATG Content Administration を通じて作成されるすべてのプロジェクトからプレビューできます。プレビュー・アプリケーションとユーザー・プロファイルの非常に柔軟なマトリックスを提供するように、プレビューを設定できます。これにより、プレビュー対応のサーバーに配置される 1 つ以上のアプリケーションでプロジェクト・アセットをテストし、異なるユーザー・プロファイルの視点でそれぞれを評価することができます。

注意: プレビュー・セッションで表示されるのは、プレビュー・セッションが起動されたプロジェクト内のアセットに関する変更のみです。他のすべてのアセットについては、最後にチェックインされたときの状態が表示されます。

サポートされるアセット・タイプ

次のアセット・タイプをプレビューできます。

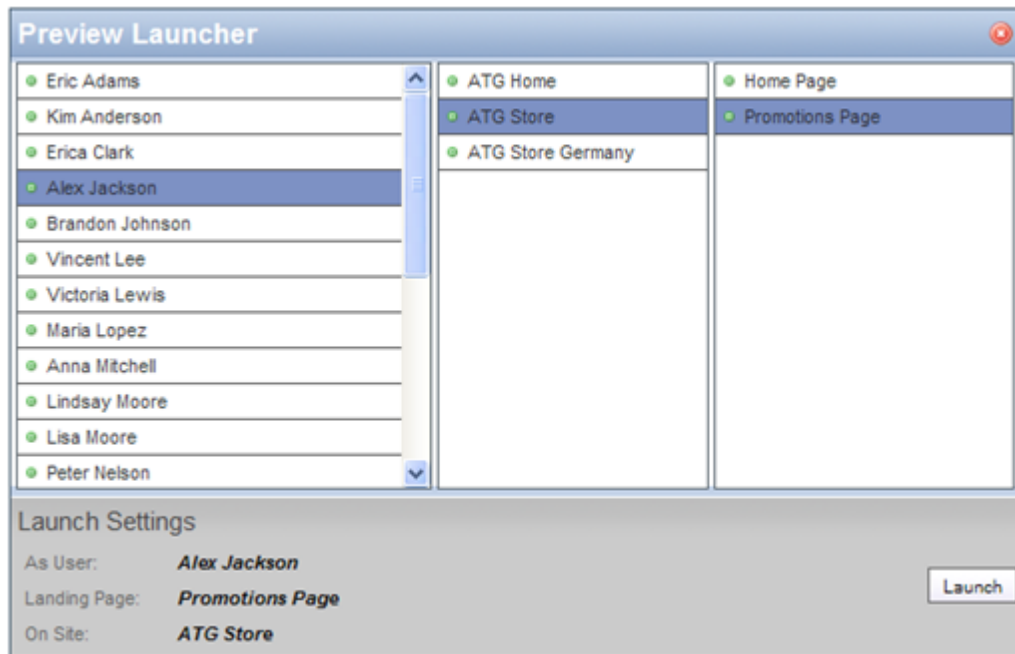
- GSAREpository アセット (製品カタログや価格表などのアセット)
- パーソナライズ・アセット (ユーザー・セグメント、ターゲット設定機能、コンテンツ・グループ、スロットおよびシナリオ)

アセットのプレビュー

アセットをプレビューするには、次の手順を実行します。

1. プレビューするアセットをプロジェクトに追加します。
2. アセットのプロパティを変更し、その変更を保存します。
3. 「詳細」ペインまたは「アセットのプロパティ」ウインドウから「プレビュー方法」をクリックします。

「プレビュー方法」をクリックすると表示される「プレビュー・ランチャ」ダイアログで、ユーザー・プロファイルおよびプレビュー URL またはランディング・ページを選択します。ATG インストールが複数の Web サイトをサポートするように設定されている場合は、プレビューで使用するサイトも選択します。



複数の Web サイトをサポートするように ATG インストールを構成する方法の詳細は、『[ATG Web Commerce Multisite Administration Guide](#)』を参照してください。

4. 「起動」をクリックしてブラウザ・ウィンドウを開き、選択されているランディング・ページ、サイトおよびプロファイルを使用するプレビュー・セッションを開始します。

アセットからプレビュー・セッションを起動すると、そのプロパティ・ウィンドウには「プレビュー」ボタンおよび「プレビュー方法」ボタンが表示されます。

- 「プレビュー」を選択すると、そのアセットから起動された前回のプレビュー・セッションにおけるユーザー・プロファイルおよびランディング・ページの設定を使用して、新しいプレビュー・セッションが開始されます。
- 「プレビュー方法」を選択すると「プレビュー・ランチャ」ダイアログが表示され、新しいプレビュー・セッションを起動する前にプレビュー設定を変更できます。

複数のプレビュー・セッションの起動

プロジェクト内の任意のアセットに対して、複数のプレビュー・セッションを起動できます。これは、起動サイトとプレビュー・プロファイルの様々な組合せを評価する場合に役立ちます。たとえば、複数のセッションを起動することで、同じサイトで異なるユーザー・プロファイルを使用してシナリオをテストしたり、同じシナリオが異なるサイトでどのように動作するかを評価したりできます。異なるプロジェクト内の同じアセットを変更し、各プロジェクトからプレビュー・セッションを起動して、その違いを比較することもできます。

プレビュー・セッションでのプレビュー・ユーザーの変更

各プレビュー・セッションでは、ブラウザに次のコントロールが表示されます。

- 「ユーザー」は、プレビュー・プロファイルのドロップダウン・メニューです。このメニューを使用して、ユーザー・プロファイルを変更します。「ランディング・ページのプレビュー」をクリックすると、新しいプロファイルでページがリフレッシュされます。

特定のセッション中にユーザー・プロファイルを変更しても、新しいセッションを起動するときに使用される設定には影響しません。

- 「**プレビュー・サイト**」は、プレビュー中にユーザーがアクセスしているサイトを表示します。
- 「**ランディング・ページのプレビュー**」は、元のプレビューURLでブラウザ・ウィンドウをリフレッシュします。

Business Control Center の外部でのプレビュー・セッションの起動

Business Control Center のフレームワークの外部で、プロジェクト・アセットの変更をプレビューできます。たとえば、Web アプリケーションの開発中は、Business Control Center へのアクセス権がない従業員や社外レビューアによる、Web アプリケーションへの変更の評価が必要になる場合があります。この場合は、Business Control Center がインストールされていないサーバーでのプレビューを有効にしてから、これらのサーバー上の起動ページにアクセスする URL をレビューアに知らせます。任意のブラウザ・ウィンドウからこれらの URL を起動できます。

注意: Business Control Center にログインしていないユーザーがプレビュー・セッションを起動できるのは、Business Control Center が実行されていないサーバーへの URL を使用する場合のみです。セキュリティ侵害を回避するために、Business Control Center サーバー上のプレビュー・セッションへの URL はブロックされています。

3 ターゲット設定の概念

パーソナライズされた動的なコンテンツを提供する Web サイト設置の一環として、次の 3 種類のターゲット設定項目を作成し、これらを連携させることで特定のコンテンツのターゲットを様々なユーザーに定めることができるようになります。

- **ユーザー・セグメント**は、ターゲットとなるコンテンツについて類似した要件を持つユーザーのグループであり、たとえば「関心にハイキングが含まれる人々」や「ニューヨークに住んでいる人々」などが挙げられます。
- **ターゲット設定機能**は、各ユーザー・セグメントに表示するコンテンツおよびそれを表示する時間を定義するビジネス・ルールです。たとえば、「毎週月曜日に、記事 X をニューヨークに住む人々に表示する」などです。
- **コンテンツ・グループ**は、類似したコンテンツ項目をグループにまとめることでターゲット設定を管理しやすくするために使用します。たとえば、ハイキングに関連するあらゆる記事が含まれるコンテンツ・グループを設定して、これらの記事を適切なユーザー・セグメントに対して順番に表示するターゲット設定機能を記述します。

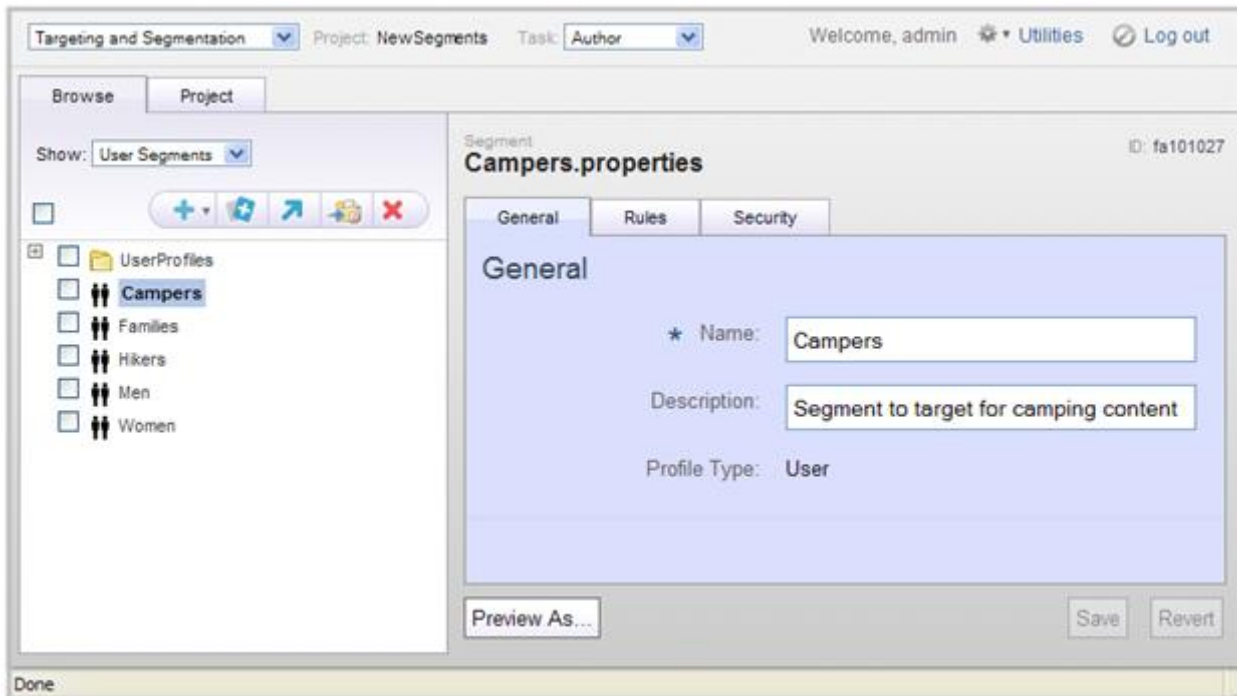
ターゲット設定項目はあなたの Web サイト上のページによって参照されるのであり、これらのページにアクセスできる必要があります。そのため、作成するあらゆるセグメント、ターゲット設定機能、コンテンツ・グループはあなたのライブ・サイトに、そのサイトに必要な他の項目（個別のコンテンツ項目、イメージ、スタイル・シート、Web ページ自体など）とともに公開される必要があります。すでに説明したように、ターゲット設定項目などのアセットを開発環境からライブ・サイトへ公開するプロセスは、ATG Content Administration によって管理されます。

複数サイト環境では、サイト固有のルールおよびルール・セットを作成することにより、パーソナライズ項目サイトに人々が気付くようにすることができます。「[複数サイトのパーソナライズおよびターゲット設定](#)」を参照してください。

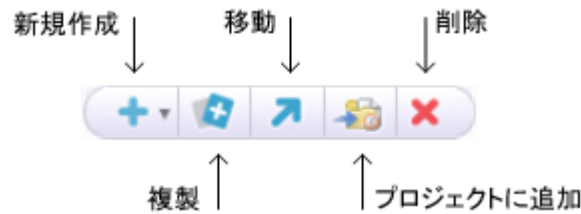
ターゲット設定インタフェース

ターゲット設定インタフェースを使用して、ユーザー・セグメント、コンテンツ・グループおよびターゲット設定機能を、作成および編集します。この後の項には、各タイプの項目の固有の操作手順が記載されています。この項では、インタフェースの概要を示し、重要な要素について説明します。

次の図は、ターゲット設定インタフェースを構成するパネルとその他の項目を示しています。



- 「プロジェクト」ラベルは、作成プロセスまたは編集プロセスを管理するためのプロジェクトの名前を示します。この例では、プロジェクトの名前は **NewSegments** です。詳細は、「[プロジェクトの基本](#)」を参照してください。
- 「タスク」メニューには現在のタスク名（この例では「作成者」）が表示され、現在のタスクの一部として実行できる処理からなります。プロジェクト内のすべて項目の作成または編集が終了したら、このメニューを使用して、プロジェクト内の次のタスク（通常は「コンテンツ・レビュー」）をアクティブにします。
- 「参照」タブには、「表示」メニューで指定されるタイプの既存のすべての項目のリストが表示されます。図では、5つのユーザー・セグメントが、システム内に現在存在するすべてのセグメントを表しています。
注意:「参照」タブ内の項目が、現在のプロジェクト内にあるとはかぎりません。ただし、作成する項目はすべてプロジェクトに自動的に追加されます。
- 「プロジェクト」タブには、現在のプロジェクトに追加されているすべての項目が表示されます。これらは、プロジェクトが完了したときにライブ・サイトに配置される項目です。
- 「参照」タブ内のアイコンを使用すると、次の操作を実行できます。
 - 「表示」メニューに表示されているタイプの項目を「**新規作成**」します。
 - 選択されている項目を「**複製**」します。これによって、複数の類似の項目を簡単に作成できます。項目を1つ作成し、それを必要なだけ複製し、複製に対して適切な変更を行います。多くの複雑なルールを持つ項目の場合、この方法で時間を短縮できます。
 - 選択されている項目を異なる親フォルダに「**移動**」します。
 - 選択されている項目を現在のプロジェクトに「**追加**」します（「[プロジェクトの基本](#)」を参照）。
 - 選択されている項目を「**削除**」します。



「新規作成」以外のどの場合も、「参照」リスト内のチェック・ボックスを使用して、アイコンの処理が適用される項目を選択します。すべての項目を選択または選択解除するには、アイコン・バーの横のチェック・ボックスを使用します。

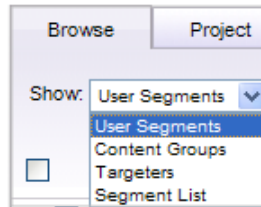
- 右ペインの上部に、現在の項目の名前(この例では `Campers.properties`)が表示されます。
- 「一般」タブには、名前や概要など、この項目の基本的な設定情報を入力するフィールドが含まれています。ここに情報が表示される項目は「参照」タブで選択されている項目で、この例の場合は `Campers` セグメントです。
- 「ルール」タブでは、ユーザー・セグメントの包含または除外の基準を構成するルールなど、この項目を定義する詳細な情報を入力できます。「ルール」タブの詳細は、このマニュアルで後述します。
- 「保存」ボタンと「元に戻す」ボタンを使用すると、この項目への変更を保持または元に戻すことができます。
注意: 項目の作成を開始するときは、「保存」ボタンではなく「作成」ボタンが表示されています。
- 「ホーム」ページに戻るには、「参照」タブおよび「プロジェクト」タブの上にあるドロップダウン・メニューから「ホーム」を選択します。

ターゲット設定項目の表示

既存の「ターゲット設定およびセグメンテーション」項目は読取り専用モードでのみ表示できます。ターゲット設定項目を読取り専用モードで表示すると、ユーザー・セグメント、コンテンツ・グループ、およびターゲット設定機能を自分の環境内で表示できますが、変更や作成はできません。(この場合の「既存」とは、項目がプロジェクトに追加されてバージョン設定システムにチェックインされていることを意味しており、これは通常はプロジェクトの「配置」タスクが完了としてマークされたときの状態です。詳細は、「プロジェクトの基本」を参照してください。『ATG Web Commerce コンテンツ管理ガイド』も参照してください。)

ターゲット設定項目を読取り専用モードで表示するには、次の手順を実行します。

1. 「ホーム」ページで、「Commerce Merchandising」を開いて「ターゲット設定およびセグメンテーション」の隣の「参照」リンクをクリックします。
2. 「表示」メニューから、表示するターゲット設定項目のタイプを選択します。



そのタイプの既存の項目が、左側の「参照」リストに表示されます。右側のペインには、左ペインで選択した項目の詳細が表示されます。

フォルダの操作

ターゲット設定項目は、`.properties` 拡張子を持つファイル・アセットとして ATG Content Administration システム内で管理されます。デフォルトでは、項目は次の場所に格納されます。

`<ATG11dir>\home\Publishing\versionFileStore\PublishingFiles`

ここで、`<ATG11dir>`は ATG 11 インストール・ディレクトリ(たとえば、`C:\ATG\ATG11`)を表します。

Business Control Center では、アセットは内部ディレクトリ構造である ATG レジストリ内のパスを通じて追跡され、これによって ATG モジュールは他のモジュール内で作成されたアイテムにアクセスできます。デフォルトでは、ターゲット設定項目はレジストリ内の次のパスを持ちます。

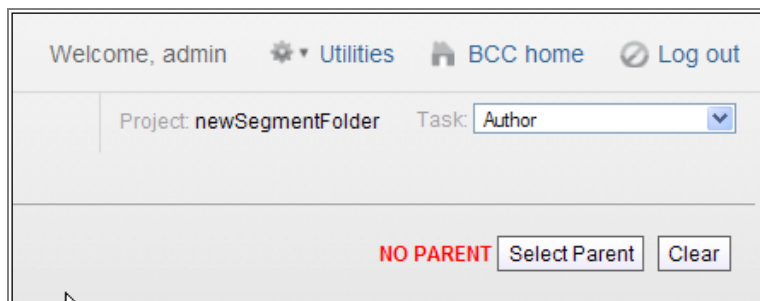
- ユーザー・セグメントおよびコンテンツ・グループ: `/atg/registry/RepositoryGroups`
- ターゲット設定機能: `/atg/registry/RepositoryTargeters`

パスの最後の部分(`RepositoryGroups` または `RepositoryTargeters`)が、レジストリ内のフォルダです。場合によっては、デフォルトと異なるフォルダの使用が求められます。次の項では、異なるフォルダを指定する方法について説明します。

注意: 選択できるのはルートの下に存在するフォルダのみであり、これがデフォルト・フォルダになります。

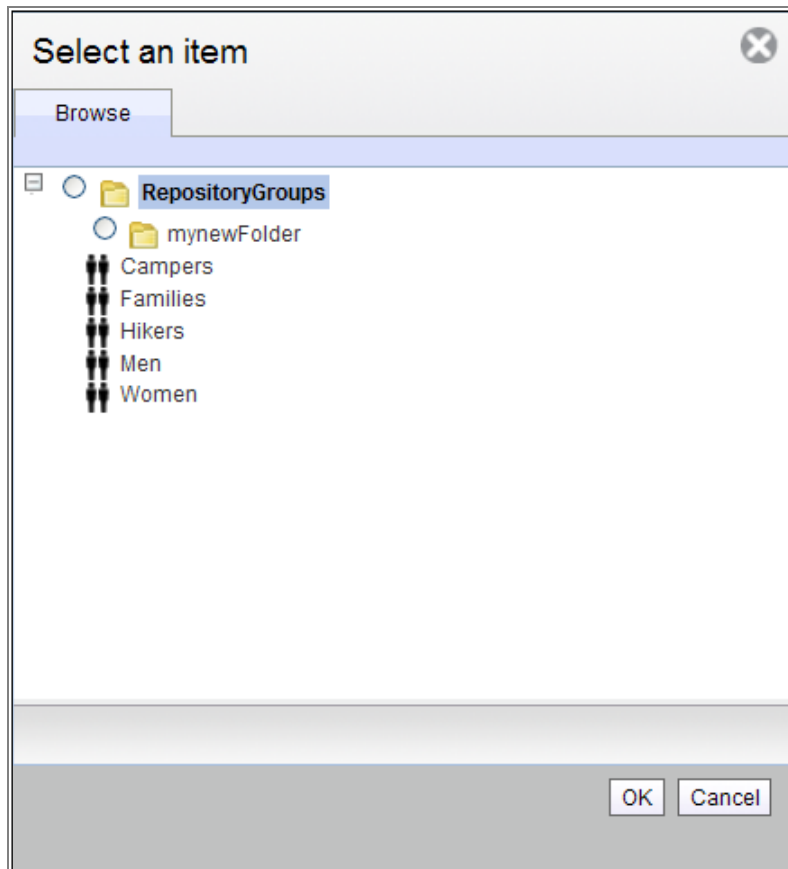
親フォルダの変更

項目を作成しているときにフォルダを変更するには、ターゲット設定インターフェースで「親の選択」ボタンを押します。

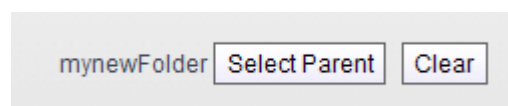


1. 「親の選択」ボタンをクリックします。

2. アセット・ピッカーを使用して、新しいフォルダを選択します。デフォルトの下に作成されているあらゆるフォルダを選択できます。



選択したフォルダの名前が、図のように「親の選択」ボタンの横に表示されます。



ターゲット設定項目が作成されると、「親の選択」ボタンは使用できなくなります。この状態で項目の場所を変更するには、「移動」機能をかわりに使用します。

ターゲット設定項目を移動するには

1. 「参照」ペインで、移動する項目のチェック・ボックスをクリックします。
2. 「移動」アイコンをクリックし、「移動」を選択します。
3. アセット・ピッカーで、目的の移動先フォルダの横にあるラジオ・ボタンをクリックし、「OK」をクリックします。

左ペインでは、ツリー内の新しい場所に項目が表示されます。

フォルダの作成

ターゲット設定項目のフォルダを作成するには

1. 「ターゲット設定およびセグメンテーション」プロジェクトで、「ターゲット設定およびセグメンテーション」にナビゲートして「ユーザー・セグメント」、「コンテンツ・グループ」、または「ターゲット設定機能」を表示します。
既存のターゲット設定項目およびフォルダがナビゲーション・ペインに表示されます。
2. (任意) サブフォルダを作成するには、ナビゲーション・ペインで親フォルダを選択します。
3. ツールバーで「作成」をクリックして「フォルダ」を選択します。
4. 「詳細」ペインで「フォルダ名」フィールドに入力します。
5. フォルダ・ツリーでフォルダの場所を指定するために、親フォルダを追加、置換、または削除します。親があらかじめ選択されているのは、「親の選択」の横にフォルダ名が表示されている場合です。
 - 親フォルダを追加または置換するには、「親の選択」をクリックして、表示されるダイアログ・ボックスで親フォルダを選択します。「OK」をクリックして、ダイアログ・ボックスを閉じます。
 - 親フォルダを削除するには、「消去」をクリックします。
6. 「作成」をクリックします。
新しいフォルダが指定した場所に表示されます。親フォルダを指定しなかった場合、フォルダは最上位に表示されます。

セグメントまたはコンテンツ・グループのフォルダの削除

セグメントとコンテンツ・グループはフォルダを共有します。セグメントまたはコンテンツ・グループのインタフェースで作成するフォルダはパス `atg\registry\RepositoryGroups` に追加され、どちらのセットも格納できます。ただし、セグメント・インタフェースにはコンテンツ・グループは表示されず、コンテンツ・グループ・インタフェースにはセグメントは表示されません。このため、どちらかのインタフェースで空と思われるフォルダを削除しようとして、次のエラー・メッセージが表示されることがあります。

エラー： 現在のビューに表示できない可能性があるコンテンツを含んでいるためフォルダを削除できません。

削除しようとしているフォルダに、編集しているアセットのタイプとは異なるために表示されない項目が含まれているために、このエラーが発生します。

別のタイプのフィルタリングが発生する場合に、同じエラーが表示される可能性があります。たとえば、外部ユーザー・プロファイル・リポジトリを参照するプロジェクトで操作している場合、内部ユーザーに適用されるアセットは表示されません。

複数サイトのパーソナライズおよびターゲット設定

複数サイト環境では、サイト固有のルールおよびルール・セットを作成することにより、パーソナライズ項目サイトに人々が気付くようにすることができます。サイトおよびサイト・グループを指定して、そこでユーザー・セグメント、コンテンツ・グループおよびターゲット設定機能に関してルールが実行されるようにできます。コンテンツ・グループおよびターゲット設定機能に対しては、コンテンツを検索する際のサイトおよびサイト・グループを指定することもできます。

複数サイト・ルールが評価される方法

複数サイト・ルールは、ターゲット設定機能が含まれるページをサイト訪問者が要求したときに評価されます。このルールには、ターゲット設定機能のルールと、ターゲット設定機能によって参照されるユーザー・セグメントおよびコンテンツ・グループのルールが含まれます。ルールは、*現在の実稼動サイト*(サイト訪問者がいるサイト)のコンテキストで評価されます。この評価によって、実行されるルールが決定されます。

ターゲット設定ルールが実行されると、先頭サイト一致が次の順序で調べられます。

1. サイト・ルール上書きの完全一致
2. サイト・グループ・ルール上書きの先頭一致
3. デフォルト・ルール

複数サイト・ルールのタイプ

ターゲット設定項目 1 つにつき 1 つのルールまたはルール・セットとは異なり、複数サイト環境によってデフォルト・ルール、サイト上書きルールおよびサイト・グループ上書きルールがサポートされます。

デフォルト・ルール

各ユーザー・セグメントまたはコンテンツ・グループには、1 つのデフォルト・ルールがあります。ターゲット設定機能には、1 つのデフォルト・ルール・セット・グループがあります。

デフォルト・ルールは必須で、これを削除することはできません。デフォルト・ルールは、サイトまたはサイト・グループ・ルールがデフォルト・ルールに優先しないかぎり、現在のサイト(訪問者がアクセスしているサイト)で実行されます。1 つ以上のサイト上書きルールですべてのサイトが集合的に指定される場合、デフォルト・ルールは実行されません。

サイト上書きルール

サイト上書きルールは、指定された 1 つ以上のサイトで実行されます。これにより、異なるサイトで異なる動作を指定できます。

サイト上書きルールは、次の要件を満たす必要があります。

- サイト上書きルールでは、このルールが実行される 1 つ以上の実行サイトを指定する必要があります。
- 同じターゲット設定項目に対する 2 つのサイト上書きルールを、同じサイトで実行できません。

サイト・グループ上書きルール

サイト・グループ上書きルールは、指定された 1 つ以上のサイト・グループで実行されます。これにより、異なるサイト・グループで異なる動作を指定できます。

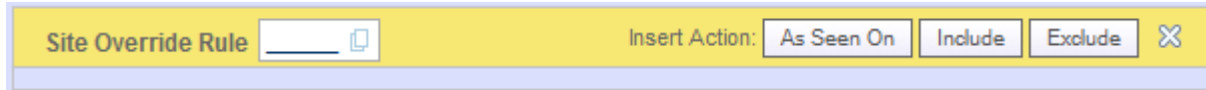
サイト・グループ上書きルールは、次の要件を満たす必要があります。

- サイト・グループ上書きルールで、このルールが実行されるサイト・グループが 1 つ以上指定されている必要があります。
- 同じターゲット設定項目に対する 2 つのサイト・グループ上書きルールを、同じサイト・グループで実行できません。

サイト上書きルールの作成

ルールが実行されるサイトを指定するには

1. ユーザー・セグメント、コンテンツ・グループ、またはコンテンツ・ターゲット設定機能を作成します。詳細は、「[ユーザー・セグメント](#)」、「[コンテンツ・グループ](#)」、または「[コンテンツ・ターゲット設定機能](#)」を参照してください。
2. 「ルール」タブで、「上書きルールの追加」ボタンまたは「ルール・セットの追加」ボタンをクリックします。
上書きルールまたはルール・セットが開きます。



3. 「サイト上書きルール」テキスト・ボックスをクリックします。
ルールに関連付けるサイトを1つ以上選択して、「OK」をクリックします。
注意: 登録されたすべてのサイトが、使用不可サイトも含めてリスト表示されます。
4. (任意) コンテンツ・グループまたはコンテンツ・ターゲット設定機能に対して、コンテンツを検索するためのサイトを指定します。「[表示対象フィルタの作成](#)」を参照してください。
5. 残りのルール構成を終了します。詳細は、「[ユーザー・セグメント・ルールの定義](#)」、「[コンテンツ・グループ・ルールの定義](#)」および「[ターゲット設定機能ルールの定義](#)」を参照してください。
6. 「作成」をクリックします。

サイト・グループ上書きルールの作成

ルールが実行されるサイト・グループを指定するには

1. ユーザー・セグメント、コンテンツ・グループ、またはコンテンツ・ターゲット設定機能を作成します。詳細は、「[ユーザー・セグメント](#)」、「[コンテンツ・グループ](#)」、または「[コンテンツ・ターゲット設定機能](#)」を参照してください。
2. 「ルール」タブで、「サイト・グループ上書きルールの追加」ボタンまたは「サイト・グループ上書きルール・セットの追加」ボタンをクリックします。
上書きルールまたはルール・セットが開きます。



3. 「サイト・グループ上書きルール」ボックスをクリックして、環境内のすべてのサイト・グループのリストを表示します。
ルールに関連付けるサイト・グループを1つ以上選択して、「OK」をクリックします。
4. ルール(またはルール・セット)が実行される順序を変更するには、優先度ボックスの中の番号を変更します。
5. (任意) コンテンツ・グループまたはコンテンツ・ターゲット設定機能に対して、コンテンツを検索するためのサイト・グループを指定します。「[表示対象フィルタの作成](#)」を参照してください。
6. 残りのルール構成を終了します。詳細は、「[ユーザー・セグメント・ルールの定義](#)」、「[コンテンツ・グループ・ルールの定義](#)」および「[ターゲット設定機能ルールの定義](#)」を参照してください。
7. 「作成」をクリックします。

表示対象フィルタの作成

サイト固有ルールの他に、ターゲット設定機能とコンテンツ・グループには「表示対象」フィルタを含めることができます。これにより、1つのサイト・コンテンツについて表示しているときにこのコンテンツが他のサイトに関連するよう操作することが可能になります。たとえば、顧客がサイト A で商品をブラウズしているとき、ターゲット設定機能によってサイト B の一連の関連商品が表示されます。

コンテンツ・グループまたはターゲット設定機能の各ルールは、デフォルト・ルールも含めて、「表示対象」フィルタを含むことができます。「表示対象」フィルタを指定しなければ、デフォルトの動作は現在のサイトのみを検索します。

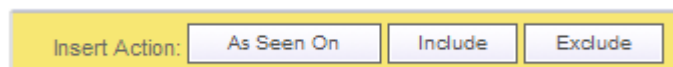
新規コンテンツ・グループまたはターゲット設定機能の「一般」タブを入力するときは、サイト・メンバーシップを持つ複数サイト・リポジトリ項目である「コンテンツ・ソース」と、サイト・メンバーシップを持つ「コンテンツ・タイプ」を選択する必要があります。デフォルトでは、可能な選択は次のとおりです。

- **コンテンツ・ソース:** ProductCatalog
- **コンテンツ・タイプ:** カテゴリ、製品または SKU

サイト・メンバーシップの詳細は、『[ATG Web Commerce Multisite Administration Guide](#)』の「サイト固有のリポジトリ・データ(サイト・メンバーシップ)」を参照してください。

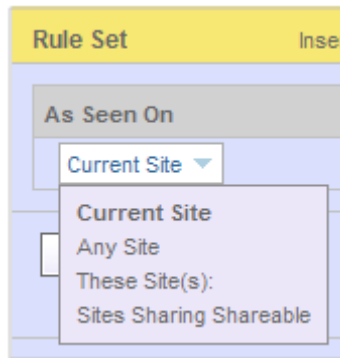
「表示対象」サイト・フィルタを使用するには

1. ルール・ヘッダーの右にある「表示対象」ボタンをクリックします。

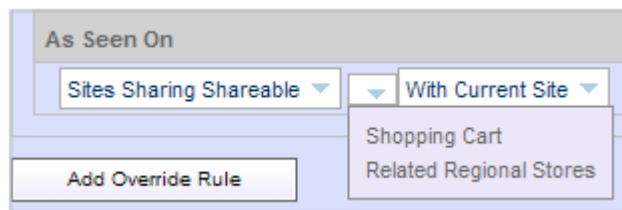


新しいフィルタの先頭が「ルール」パネルに表示されます。

2. 問合せの制限をかけるサイトを指定します。これを行うには、デフォルト・オプションの「現在のサイト」をクリックします。次のオプションが表示されます。



- 「現在のサイト」を選択すると、訪問者が現在アクセスしているサイトが指定されます。
- 「任意のサイト」を選択すると、環境内のすべての登録済サイトが指定されます。
- 「複数のサイト」を選択すると、固有のサイトが選択されます。開かれる新しいボックスをクリックして、サイトのリストを表示します。1つ以上の項目の横のチェック・ボックスを選択し、「OK」をクリックします。
注意: 登録されたすべてのサイトが、使用不可サイトも含めてリスト表示されます。
- 「Sites Sharing Shareable」を選択すると、「ショッピング・カート」、「ログイン・ステータス」、「ギフト・リスト」などの共有項目が、現在のサイトと指定されたサイトのいずれかで選択されます。「Sites Sharing Shareable」と「With Current Site」の間の矢印をクリックして、共有可能な項目を表示します。選択するには、目的の項目をハイライトします。



「With Current Site」をクリックすると、「With Site」という別の項目が表示されます。「With Site」を選択すると、別のボックスが表示されます。「(サイト選択)」ボックス内の矢印をクリックして、サイトのリストを表示します。目的の項目をハイライトして選択します。

注意: 登録されたすべてのサイトが、使用不可サイトも含めてリスト表示されます。

3. 残りのルール構成を終了します。詳細は、「[ユーザー・セグメント・ルールの定義](#)」、「[コンテンツ・グループ・ルールの定義](#)」および「[ターゲット設定機能ルールの定義](#)」を参照してください。
4. 「作成」をクリックします。

ターゲット設定機能が1つ以上のコンテンツ・グループを参照していて、両方の項目のルールでサイト・フィルタが使用されている場合、「表示対象」サイト・フィルタが明示的に競合しないようにしてください。次の表に示すような構成は回避します。

コンテンツ・グループの構成	ターゲット設定機能の構成
サイト D で実行する上書きルール 表示対象 サイト C ←競合→	サイト D で実行する上書きルール 表示対象 サイト A および B

4 ユーザー・セグメント

ユーザー・セグメントは、ターゲット対象者内のユーザー・グループを表します。ユーザーのプロファイル・プロパティに従ってユーザーを含めたり除外するルールを定義することによって、セグメントを作成します。たとえば、年収\$150,000の女性大卒者でカリフォルニア出身者は除く、**High Earners**というセグメントを作成できます。このセグメントを定義するルールは、次のようになります。

```
Include these people:  
  people whose Gender is Female  
  and whose educationLevel is College Graduate  
  and whose annualIncome is greater than 150000.00  
-----
```

```
Exclude these people:  
  people whose Home address's State is California
```

このセグメントを設定した後、「ターゲット設定機能」ウィンドウを使用して、**High Earners**の基準を満たすユーザーにパーソナライズされたコンテンツを配信するためのターゲット設定ルールを作成できます。次に例を示します。

```
Show this content:  
  newLuxuryCars  
To these people:  
  people in group HighEarners
```

ここからわかるように、ターゲット対象者をセグメント化することで、ターゲット設定ルールが単純化され、保守しやすくなります。

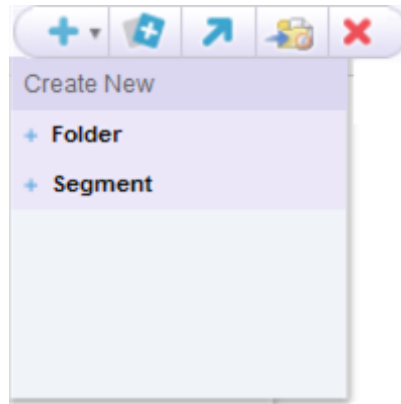
ユーザー・セグメントの作成

ユーザー・セグメントを作成すると、セグメントと同じ名前の新しいプロパティが、リポジトリ内のそのタイプのすべてのプロファイルに割り当てられます。プロファイルがそのセグメントの基準を満たすかどうかに応じて、そのプロパティは **true** または **false** に設定されます。たとえば、タイプ **Investor** のプロファイルに対して **High Earners** というセグメントを作成すると、すべての **Investor** プロファイルに **HighEarners** という新しいプロパティが設定されます。プロファイルがそのセグメントの基準に一致する場合、そのプロファイル内の **HighEarners** プロパティは **true** に設定されます。プロファイルがセグメントの基準に一致しない場合、**HighEarners** プロパティは **false** に設定されます。システムはこの方法を使用して各ユーザー・セグメントに属するプロファイルを決定します。

セグメントを作成するには

1. 「ホーム」ページから「Commerce Merchandising」→「ターゲット設定およびセグメンテーション」を選択します。

2. 新規セグメントの作成およびバージョン設定を管理するプロジェクトの、名前と概要(オプション)を指定します。
3. 「表示」リストから「ユーザー・セグメント」を選択します。
4. 「新規作成」アイコンをクリックし、「新規作成」→「セグメント」を選択します。



5. 次に示す「一般」タブのフィールドに入力します。

名前: 新規セグメントの名前を入力します。名前は必須であり、空白を含むことができます。

摘要: 新規セグメントの識別に役立つ摘要のテキストを入力します。

プロフィール・タイプ: セグメントに属するユーザーに対応するプロフィール・タイプを選択します(定義する追加の基準をユーザーが満たすことが前提です)。表示されるオプションは、システムで使用されているプロフィール定義ファイル内の項目記述子タイプで、該当の項目のサブタイプも含まれます。

前述の項の例では、プロフィール定義に基準タイプ **User** と、**Investor** および **Broker** という2つのサブタイプが含まれることを前提としています。この例において、すべてのサイト訪問者に **New Members** というセグメントを適用できるようにするには、**User** というプロフィールの基準タイプを指定します。**High Earners** というセグメントは投資家の訪問者にのみ該当するものであるため、そのセグメントのプロフィール・タイプとしてサブタイプ **Investor** を指定できます。セグメントの潜在的なメンバーシップをプロフィールの特定のサブタイプに制限することで、セグメントの作成の結果としてシステムが変更する必要があるプロフィールの数を最小限にすることができます。

「作成」ボタンをクリックしてセグメントを作成した後に、プロフィール・タイプを編集することはできません。「ルール」タブへの切替えによっても、このセグメントの設定が確定されません。

6. デフォルトでは、セグメントは拡張子 **.properties** を持つファイルとして **/atg/registry/RepositoryGroups** に格納されます。新規セグメントが保存されるフォルダを変更するには、「親の選択」をクリックして、新規フォルダを指定します。
注意: セグメントを作成した後に場所を変更する必要がある場合は、「移動」アイコンを使用します。
7. 「一般」タブのフィールドへの入力完了したら、「作成」をクリックします。新規セグメントがアセットとしてプロジェクトに追加されます。
8. 「ルール」をクリックして「ルール」タブを表示し、次の「[ユーザー・セグメント・ルールの定義](#)」の手順に従います。

ユーザー・セグメント・ルールの定義

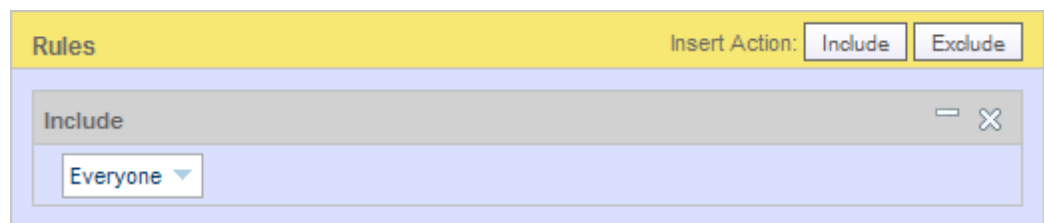
セグメントの作成プロセスの一環として、グループに含まれるユーザー・プロフィールを定義するルールを設定する必要があります。

注意: 複数サイト環境で操作している場合は、「[複数サイト環境でのユーザー・セグメント・ルールの定義](#)」に進んでください。

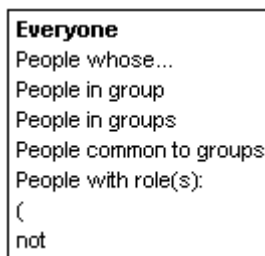
ユーザー・セグメント・ルールを定義するには、次の手順に従います。

1. ユーザー・セグメントの「ルール」タブを表示します。
2. 「ルール」タイトル・バーにある「含む」または「除外」をクリックします。
 - 含めるプロフィールでセグメントを定義するには、「含む」を使用します。
 - 除外するプロフィールでセグメントを定義するには、「除外」を使用します。

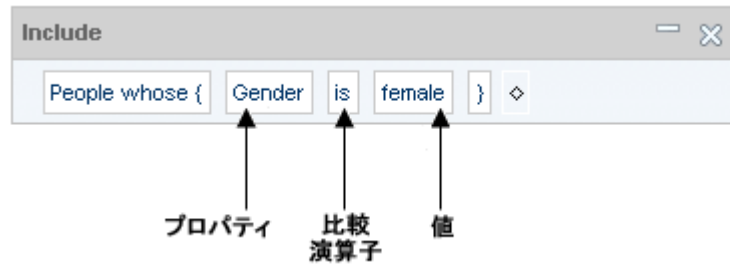
「ルール」パネルに新規ルールの先頭が表示されます。



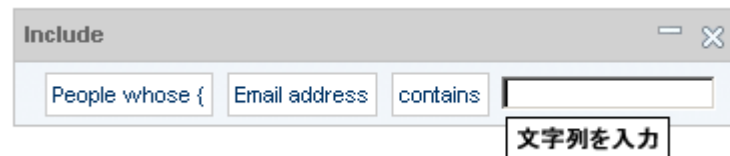
3. 含めるプロフィールまたは除外するプロフィールを指定します。これを行うには、デフォルト・オプションの「everyone」をクリックします。次のオプションが表示されます。



- プロフィール・リポジトリに格納されているすべてのプロフィールを含めるまたは除外する場合は、「everyone」をクリックします。
- 環境で使用されているプロフィール・リポジトリ内の特定のプロパティに基づいてユーザーを含めるまたは除外する場合は、「People whose」を選択します。このオプションを選択すると、複数のフィールドが表示されて、使用するプロパティ、比較演算子および値を選択できます。



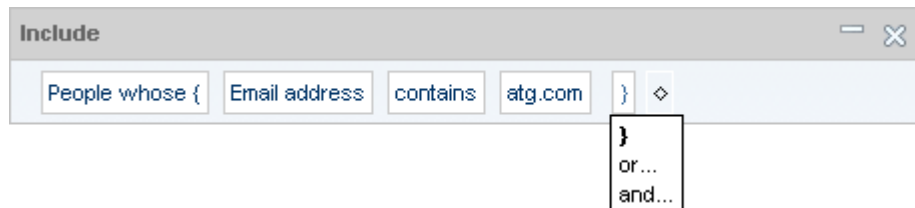
比較演算子と値のドロップダウン・リスト内の選択肢は、選択するプロパティによって変わります。プロパティの値が限られている場合、値リストには選択できるすべての項目が示されます。プロパティの値の個数に制限がない場合は、次に示すように独自の値をリストに直接入力できます。要求される値タイプを示す指示が、テキスト・フィールドの下に表示されます。



次に示すように、この条件をさらに多くの基準で修飾できます。

People whose email address contains atg.com and telephone number starts with 617.

これを行うには、示されているように 2 番目のカッコをクリックし、「または」または「および」を選択します。

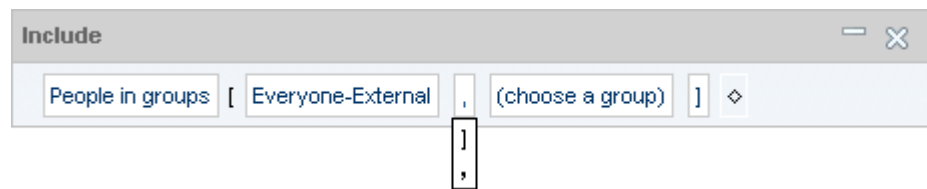


この後、追加の基準を入力できます。このように基準を追加する方法と、語句の末尾のひし形をクリックして追加する方法は異なるので注意してください。ひし形をクリックして別の「および」条件を追加する場合は、2 つの集合の論理和を表す式が作成されます。

People whose email address contains atg.com and people whose telephone number starts with 617.

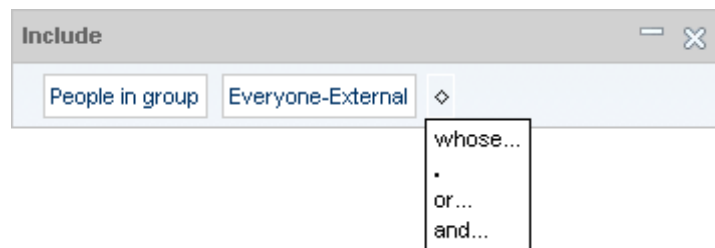
- 既存のセグメントのプロファイルを含めるまたは除外する場合は、「People in group(s)」をクリックします。次に、追加するセグメントを選択します。セグメントがオプションとして表示されるためには、バージョン設定システム内でベース・バージョンを持っている必要があります（つまり、別のプロジェクトで作成され、配置が承認されている必要があります）。

複数のセグメントがあり、2 つ以上を指定する必要がある場合は、最初のセグメントを入力してその後のカッコ記号をクリックし、カンマ・オプションを選択します。



別のグループを指定できます。これを必要なだけ繰り返します。

別の基準を追加して、この文をさらに修飾することもできます(例: **People in Group Brokers whose Registration Date is Before June 1, 2004**)。これを行うには、示されているように語句の末尾の要素をクリックし、「Whose」を選択します。



前述の「People whose」オプションの指示に従います。

- 複数のセグメントに出現するプロフィールを指定する場合は、「**People Common to Groups**」を選択し、基準として使用するセグメントを入力します。再びカッコをクリックしてカンマ・オプションを選択し、複数のセグメントを入力します。
- 特定のグローバル・ロールまたは組織ロールに割り当てられているユーザーを含めるまたは除外する場合は、「**People with role(s)**」を選択します。ロール・フィールドをクリックすると表示される選択ダイアログを使用して、目的のロールを選択できます。詳細は、「[アセット・ピッカーによる項目の選択](#)」を参照してください。

別の基準を追加して、この文をさらに修飾できます。これを行うには、語句の末尾のひし形をクリックし、「Whose」を選択します。前述の「People whose」オプションの指示に従います。

4. ルールに別の条件文を追加する場合は、式の末尾のピリオドをクリックし、「および」または「または」を選択します。
5. ルールの定義が終了したら、「保存」(または「作成」)をクリックします。
6. 「[プロジェクトの基本](#)」に示されている手順に従って、「作成者」タスクを完了とマークし、プロジェクトを次のタスク(通常は「承認」)に進めます。すべてのタスクが完了するとプロジェクトを配置でき、新しいセグメントがライブ・サイトで有効になります。

複数サイト環境でのユーザー・セグメント・ルールの定義

ユーザー・セグメント内のユーザーの基本的定義の構成は、複数サイト環境においても、未登録サイトが1つしかない環境であるため、同じです。しかし、複数サイト環境では、サイトまたはサイト・グループの上書きルールを指定できます。

複数サイト環境でサイト固有ルールを作成する方法の詳細は、「[複数サイトのパーソナライズおよびターゲット設定](#)」を参照してください。

複数サイト環境でユーザー・セグメント・ルールを定義するには、次の手順に従います。

1. ユーザー・セグメントの「ルール」タブを表示します。
2. デフォルト・ルールを作成します。ルール作成の詳細は、「[ユーザー・セグメント・ルールの定義](#)」を参照してください。
各ユーザー・セグメントには、デフォルト・ルールが必要です。デフォルト・ルールは、そのサイトにサイト上書きルールが存在しないかぎり、現在のサイト(訪問者がいるサイト)で実行されます。
3. (任意) サイト上書きルールを作成します。ルールのサイトを選択する場合の詳細は、「[サイト上書きルールの作成](#)」を参照してください。ルール作成の詳細は、「[ユーザー・セグメント・ルールの定義](#)」を参照してください。
4. (任意) サイト・グループ上書きルールを作成します。ルールのサイト・グループを選択する場合の詳細は、「[サイト・グループ上書きルールの作成](#)」を参照してください。ルール作成の詳細は、「[ユーザー・セグメント・ルールの定義](#)」を参照してください。
5. 手順の3と4を、作成する各々のサイトまたはサイト・グループ上書きルールで繰り返します。
6. ルールの定義が終了したら、「保存」(または「作成」)をクリックします。
7. 「[プロジェクトの基本](#)」に示されている手順に従って、「作成者」タスクを完了とマークし、プロジェクトを次のタスク(通常は「承認」)に進めます。すべてのタスクが完了するとプロジェクトを配置でき、新しいセグメントがライブ・サイトで有効になります。

複数サイト・ユーザー・セグメントの例

この項では、ユーザー・セグメント・サイト上書きルールの例について説明します。

注意: この項の例は Oracle Commerce Reference Store をベースにしており、パーソナライズ・ルールを複数サイト環境で設定するためのベスト・プラクティスを説明するよう構成されています。Commerce Reference Store のインストールの詳細は、『[ATG Web Commerce Reference Store Installation and Configuration Guide](#)』を参照してください。Commerce Reference Store およびそのサンプル・ストアフロントの詳細は、『[ATG Web Commerce Reference Store Overview](#)』を参照してください。

Commerce Reference Store には 4 つの動的ユーザー・セグメントが付属しており、それぞれが人口統計学的特性に基づいて顧客を含めたり除外するルールを持っています。これらのユーザー・セグメントの中の 1 つである Young は、サイト固有の上書きルールを活用して、Young 顧客をそれぞれのサイトで別々に定義します。デフォルトのルール 1 つと、サイト固有の上書きルール 2 つが定義されます。

- デフォルト・ルールは Young 顧客を、年齢が 35 歳未満の人々と定義します。CRS Store US はデフォルト・ルールを使用します。
- CRS Home では、デフォルト・ルールは Young 顧客が年齢が 40 歳未満の人々であると指定するよう書きされます。
- CRS Store Germany では、上書きルールは Young セグメントに分類される顧客はいないと指定しています。

次の図は、「Young」セグメントのデフォルト・ルールと、2 つのサイト上書きルールを示しています。

Default Rule
Insert Action:

Include
- ✕

People whose Age is less than 35 } .

The system evaluates Rules in the following order using the Shopper's site context.

1. Exact site match in the Site Override Rule(s)
2. First site match in the Site Group Override Rule(s)
3. Default Rule

Site Override Rule
Insert Action: ✕

Exclude
- ✕

Everyone

Site Override Rule
Insert Action: ✕

Include
- ✕

People whose Age is less than 40 } .

ユーザー・セグメントの削除

ユーザー・セグメントを削除するには、セグメントのチェック・ボックスを選択し、「削除」アイコンをクリックします。セグメントが含まれているフォルダを削除すると、次のエラー・メッセージが表示されます。

エラー：現在のビューに表示できない可能性があるコンテンツを含んでいるためフォルダを削除できません。

このメッセージの詳細は、「[セグメントまたはコンテンツ・グループのフォルダの削除](#)」を参照してください。

5 コンテンツ・グループ

「コンテンツ・グループ」ウィンドウでは、共通のプロパティを共有するコンテンツ項目のコレクションであるコンテンツ・グループを作成および定義して、ターゲット設定を簡単に行うことができます。たとえば、ニューヨークに住んでいる新しいサイト・メンバー向けの特別なコンテンツ項目が含まれる、**NewNYInfo** というコンテンツ・グループを作成できます。このグループを定義するルールは、次のようになります。

```
Include this content:  
  items whose TargetAudience is NewUsers  
  and whose keywords includes New York
```

「コンテンツ Targeters」ウィンドウを使用して、このコンテンツを目的の対象者に配信するためのビジネス・ルールを設定できます。次に例を示します。

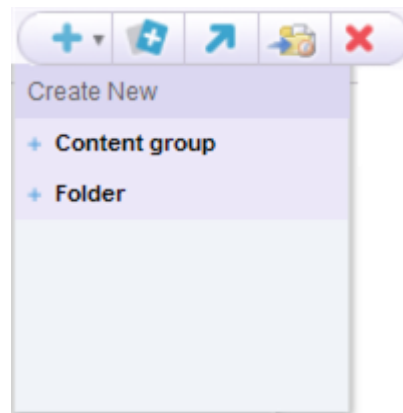
```
Show this content:  
  items in group NewNYInfo  
to these people:  
  people whose Registration date is after 03/31/2004
```

コンテンツ・グループを作成すると、コンテンツ・グループと同じ名前の新しいプロパティが、リポジトリ内のすべてのコンテンツ項目に割り当てられます。コンテンツ項目がグループ定義に一致するかどうかに応じて、そのプロパティは **true** または **false** に設定されます。たとえば、**NewNYInfo** というコンテンツ・グループを作成すると、すべてのコンテンツ項目に **NewNYInfo** という新しいプロパティが設定されます。項目がそのグループの基準に一致する場合、そのコンテンツの **NewNYInfo** プロパティは **true** に設定されます。項目がグループの基準に一致しない場合、**NewNYInfo** プロパティは **false** に設定されます。システムはこの方法を使用して各グループに属する項目を決定します。

コンテンツ・グループの作成

コンテンツ・グループを作成するには、この項の手順に従います。

1. 「ホーム」ページから「Commerce Merchandising」→「ターゲット設定およびセグメンテーション」を選択します。
2. 新規コンテンツ・グループの作成およびバージョン設定を管理するプロジェクトの、名前と摘要(オプション)を指定します。
3. 「表示」リストから「コンテンツ・グループ」を選択します。
4. 「新規作成」アイコンをクリックし、「新規作成」→「コンテンツ・グループ」を選択します。



5. 次に示す「一般」タブのフィールドに入力します。

名前: 新規グループの名前を入力します。名前には空白を含めることができます。

摘要: 新規グループの識別に役立つ摘要のテキストを入力します。

コンテンツ・ソース: 「コンテンツ・ソース」ドロップダウン・リストからリポジトリを選択します。選択するリポジトリによって、グループのルールを定義するときそのグループに含めることを選択できるコンテンツ項目、コンテンツ・タイプおよびコンテンツ・プロパティが決まります(次の項を参照)。グループに含めることができるのは、このリポジトリ内の項目のみです。

コンテンツ・タイプ: 含めることができるコンテンツのタイプを選択します。タイプは、コンテンツ・リポジトリ定義ファイル内の項目記述子タイプに対して定義されている項目のサブセットに対応します。各項目タイプは独自のプロパティを持ちます。詳細は、『[ATG Web Commerce Repository Guide](#)』を参照してください。

「作成」ボタンをクリックしてコンテンツ・グループを作成した後、これらの設定を編集することはできません。「ルール」タブへの切替えによっても、これらの設定が確定されます。

コンテンツ・グループを複数サイト環境で作成しており、サイト固有ルールの「表示対象」フィルタを指定する場合は、必ずサイト・メンバーシップを持つ複数サイト・リポジトリ項目である「コンテンツ・ソース」、およびサイト・メンバーシップを持つ「コンテンツ・タイプ」を選択してください。詳細は、『[ATG Web Commerce Multisite Administration Guide](#)』の「サイト固有のリポジトリ・データ(サイト・メンバーシップ)」を参照してください。「表示対象」フィルタの詳細は、「[表示対象フィルタの作成](#)」を参照してください。

6. デフォルトでは、コンテンツ・グループは拡張子 `.properties` を持つファイルとして `/atg/registry/RepositoryGroups` に格納されます。新規セグメントが保存されるフォルダを変更するには、「親の選択」をクリックして、新規フォルダを指定します。

注意: コンテンツ・グループを作成した後に場所を変更する必要がある場合は、「移動」アイコンを使用します。

7. 「一般」タブのフィールドへの入力完了したら、「作成」をクリックします。「参照」タブに新規コンテンツ・グループが表示され、アセットとしてプロジェクトに追加されます。

8. 「ルール」をクリックして「ルール」タブを表示し、次の「[コンテンツ・グループ・ルールの定義](#)」の手順に従います。

最初に「作成」ボタンをクリックせずにそのまま「ルール」タブを使用することもできます。ただし、その場合、それまでの変更は保存されないため、セッションが終了したりUIの別の部分にナビゲートすると、コンテンツ・グループが失われます。「作成」を選択すると新規グループが保持されるため、いつでもその定義のプロセスを続行できます。

コンテンツ・グループ・ルールの定義

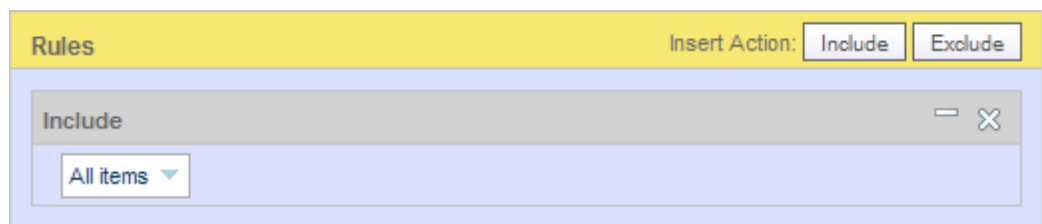
新規コンテンツ・グループを追加するたび、グループに含まれるコンテンツを定義するルールを設定する必要があります。

注意: 複数サイト環境で操作している場合は、「[複数サイト環境でのコンテンツ・グループ・ルールの定義](#)」に進んでください。

コンテンツ・グループ内のコンテンツの定義

コンテンツ・グループ内のコンテンツを定義するには

1. コンテンツ・グループの「ルール」タブを表示します。
 2. 「ルール」タイトル・バーにある「含む」または「除外」をクリックします。
 - 含めるコンテンツでコンテンツ・グループを定義するには、「含む」を使用します。
 - 除外するコンテンツでコンテンツ・グループを定義するには、「除外」を使用します。
- 「ルール」パネルに新規ルールの先頭が表示されます。



3. 含めるコンテンツまたは除外するコンテンツを指定します。これを行うには、デフォルト・オプションの「All items」をクリックします。次のオプションが表示されます。



4. 表示するコンテンツまたは表示しないコンテンツを指定します。
 - 選択されたリポジトリに格納されているすべてのコンテンツ項目を含めるまたは除外する場合は、「All items」をクリックします。
 - 他の既存のコンテンツ・グループの項目を含めるまたは除外する場合は、「Items in group(s)」をクリックします。追加するグループを選択します。コンテンツ・ソースとコンテンツ・タイプが、このグループの「一般」タブで指定されたコンテンツ・ソースとコンテンツ・タイプに一致するグループのみが、オプションとして表示されることを忘れないでください。また、コンテンツ・グループがここに表示されるためには、バージョン設定システム内でベース・バージョンを持っている必要があることにも注意してください。これは、別のプロジェクトで作成され、チェックインされている必要

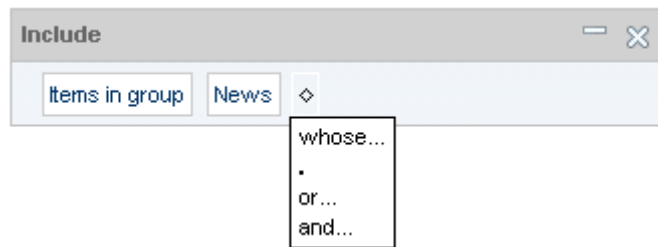
があることを意味します(ただし、配置されているとはかぎりません)。アセットを
チェックインする方法とそのタイミングの詳細は、『[ATG Web Commerce コンテンツ
管理ガイド](#)』を参照してください。

複数のグループがあり、2 つ以上を指定する必要がある場合は、最初のグループ
を入力してその後のカッコ記号をクリックし、カンマ・オプションを選択します。



別のグループを指定できます。これを必要なだけ繰り返します。

別の基準を追加して、この文をさらに修飾することもできます(例: **Items in
Group News whose Last Modified Date is after June 3, 2006**)。これ
を行うには、示されているように語句の末尾のひし形をクリックし、「Whose」を選択
します。



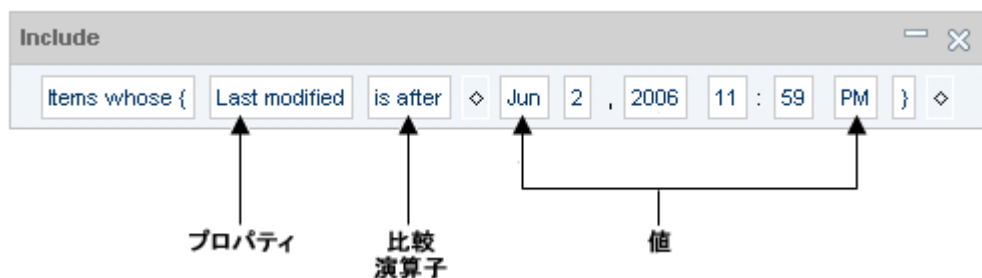
次の「Items whose」オプションの指示に従います。

- 複数のグループに出現する項目を指定する場合は、「**Items Common to Groups**」
を選択し、基準として使用するグループを入力します。再びカッコをクリックしてカ
ンマ・オプションを選択し、複数のグループを入力します。
- 特定のリポジトリ・フォルダのすべての項目を含めるまたは除外する場合は、
「**Items in folder(s)**」をクリックします。表示されるアセット・ピッカーを使用して、目
的のフォルダを指定します。詳細は、「[アセット・ピッカーによる項目の選択](#)」を参照
してください。

前述のように、語句の末尾のピリオドをクリックし、「Whose」を選択することによって、
別の基準を追加してこの文をさらに修飾することもできます

次の「Items whose」オプションの指示に従います。

- 特定のコンテンツ項目を含めるまたは除外する場合は、「**these items**」をクリックし
ます。アセット・ピッカーを使用して、指定する個々のコンテンツ項目を選択します。
「Whose」オプションを選択して追加の基準を定義できます。
- 特定のコンテンツ・プロパティに基づいて項目を含めるまたは除外する場合は、
「**Items whose**」をクリックします。このオプションを選択すると、複数のフィールドが
表示されて、使用するプロパティ、比較演算子および値を選択できます。



選択できるプロパティは、操作しているリポジトリによって異なります。比較演算子と値のドロップダウン・リスト内の選択肢は、選択するプロパティによって変わります。プロパティの値が限られている場合、値リストには選択できるすべての項目が表示されます。プロパティの値の個数に制限がない場合は、次に示すように独自の値をリストに直接入力できます。要求される値タイプを示す指示が、テキスト・フィールドの下に表示されます。



5. ルールに別の条件文を追加する場合は、式の末尾の要素をクリックし、「And」または「Or」を選択します。
6. グループ定義をさらに限定する場合は、再び「含む」または「除外」をクリックして定義内でルール・セットを作成し、前述の手順を繰り返します。
7. ルールの定義が終了したら、「作成」をクリックします。
8. 「プロジェクトの基本」に示されている手順に従って、「作成者」タスクを完了とマークし、プロジェクトを次のタスク（通常は「承認」）に進めます。すべてのタスクが完了するとプロジェクトを配置でき、新しいターゲット設定機能がライブ・サイトで有効になります。

複数サイト環境でのコンテンツ・グループ・ルールの定義

コンテンツ・グループの基本的定義の構成は、複数サイト環境においても、未登録サイトが1つしかない環境であるため、同じです。しかし、複数サイト環境では、サイトまたはサイト・グループの上書きルールを指定できます。

複数サイト環境でコンテンツ・グループ・ルールを定義するには、次の手順に従います。

1. コンテンツ・グループの「ルール」タブを表示します。
2. デフォルト・ルールを作成します。ルール作成の詳細は、「[コンテンツ・グループ・ルールの定義](#)」を参照してください。1つのサイト・コンテンツについて表示しているときにこのコンテンツが他のサイトに関連するよう操作できるようにするフィルタを作成する場合の詳細は、「[表示対象フィルタの作成](#)」を参照してください。

各コンテンツ・グループには、デフォルト・ルールが必要です。デフォルト・ルールは、そのサイトにサイト上書きルールが存在しないかぎり、現在のサイト（訪問者がいるサイト）で実行されます。

3. (任意) サイト上書きルールを作成します。ルールのサイトを選択する場合の詳細は、「[サイト上書きルールの作成](#)」を参照してください。ルール作成の詳細は、「[コンテンツ・グループ・ルールの定義](#)」を参照してください。
4. (任意) サイト・グループ上書きルールを作成します。ルールのサイト・グループを選択する場合の詳細は、「[サイト・グループ上書きルールの作成](#)」を参照してください。ルール作成の詳細は、「[コンテンツ・グループ・ルールの定義](#)」を参照してください。
5. ルールの定義が終了したら、「保存」(または「作成」)をクリックします。
6. 「[プロジェクトの基本](#)」に示されている手順に従って、「作成者」タスクを完了とマークし、プロジェクトを次のタスク(通常は「承認」)に進めます。すべてのタスクが完了するとプロジェクトを配置でき、新しいセグメントがライブ・サイトで有効になります。

単一サイト環境からのコンテンツ・グループ・ルールの再利用

単一サイト環境で動作するコンテンツ・グループ・ルールは、複数サイト環境でも動作します。ルールを編集しない場合、ルールは現在のサイトでのみ実行され、現在のサイトのコンテンツのみを含みます。したがって、コンテンツ項目の以前のコレクションがそのサイトに関連付けられていない場合、完全なコレクションの結果が含まれることはありません。サイトまたはサイト・グループ上書きルールを追加してコンテンツ・グループがすべてのサイトの項目を含むよう再構成するか、あるいは選択を絞り込みます。

複数サイト・コンテンツ・グループの例

この項では、コンテンツ・グループ・サイト上書きルールの例について説明します。

注意: この項の例は Oracle Commerce Reference Store をベースにしており、パーソナライズ・ルールを複数サイト環境で設定するためのベスト・プラクティスを説明するよう構成されています。Commerce Reference Store のインストールの詳細は、『[ATG Web Commerce Reference Store Installation and Configuration Guide](#)』を参照してください。Commerce Reference Store およびそのサンプル・ストアフロントの詳細は、『[ATG Web Commerce Reference Store Overview](#)』を参照してください。

Commerce Reference Store には、「`NavigableProducts`」という名前のコンテンツ・グループが付属しています。顧客は、カタログ内のナビゲート不可項目にナビゲートすることはできません。次の図は、`NavigableProducts` コンテンツ・グループのデフォルト・ルールとサイト上書きルールを示しています。デフォルト・ルールでは、親カテゴリに `ID NonNavigableProducts` のカテゴリが含まれるすべての項目が除外されます。CRS Home ストアのサイト上書きルールでは、親カテゴリに `ID NonNavigableProducts` または `homeStoreNonNavigableProducts` のカテゴリが含まれるすべての項目が除外されます。

Default Rule Insert Action: As Seen On Include Exclude

As Seen On - X

Any Site

Exclude - X

Items whose Parent categories contains any Category whose { Id is
NonNavigableProducts } } .

The system evaluates Rules in the following order using the Shopper's site context.

1. Exact site match in the Site Override Rule(s)
2. First site match in the Site Group Override Rule(s)
3. Default Rule

Site Override Rule ATG Home Insert Action: As Seen On Include Exclude X

As Seen On - X

Any Site

Exclude - X

Items whose Parent categories contains any Category whose { Id is
homeStoreNonNavigableProducts or Id is NonNavigableProducts } } .

コンテンツ・グループの削除

コンテンツ・グループを削除するには、グループのチェック・ボックスを選択し、「削除」アイコンをクリックします。コンテンツ・グループが含まれるフォルダを削除すると、次のエラー・メッセージが表示されます。詳細は、「[セグメントまたはコンテンツ・グループのフォルダの削除](#)」を参照してください。

エラー：現在のビューに表示できない可能性があるコンテンツを含んでいるためフォルダを削除できません。

6 コンテンツ・ターゲット設定機能

ユーザー・セグメントとコンテンツ・グループを設定したら、どのコンテンツ・グループを誰にどのような状況で表示するかを指定します。この操作は、Business Control Center の「ターゲット設定およびセグメンテーション」オプションを通じて作成するビジネス・ルールである、コンテンツ・ターゲット設定機能を設定することによって行うことができます。コンテンツ・ターゲット設定機能では、各ユーザー・セグメントに表示するコンテンツを定義します。

コンテンツ・ターゲット設定機能は、表示および非表示の 2 種類のビジネス・ルールを含むことができます。各ルール・タイプは、コンテンツ、個人、時間および環境要因に関連する特定の条件で構成され、通常は、「*Show/Hide this content... to/from these people... at these times... under these conditions*」の形式です。たとえば、新しい特集記事(newMemberFeatures コンテンツ・グループ内)を、登録されているサイト・ユーザー(registeredMembers ユーザー・セグメント内)に、毎週月曜日に表示するものとします。この場合、次のルールからなる newFeatures というターゲット設定機能を作成します。

```
Show this content:  
  items in group newMemberFeatures  
to these people:  
  people in group registeredMembers  
at these times:  
  every Monday of every month
```

このターゲット設定機能が起動されると、最初に、コンテンツ条件以外のすべての条件が調べられます。まず、ユーザー・プロフィール内の registeredMembers プロパティが true に設定されていることを確認します(対象個人条件)。この条件または他の条件が失敗した場合、ターゲット設定機能はルールを完全に無視します。条件がパスした場合は、今日が月曜日かどうかを確認します(日時条件)。これらの条件がすべてパスした場合、ターゲット設定機能はコンテンツ条件を調べて、項目の表示または非表示を決定します。この例では、newMemberFeatures コンテンツ・グループ内のすべての項目がユーザーに表示されます。

ターゲット設定機能が作成されると、ページ開発者がターゲット設定サーブレット Bean を使用してそれを適切なサイト・ページに埋め込むことにより、ターゲット設定条件を満たす訪問者に特定のコンテンツが表示されるようになります(通常、ページ開発者は ACC の「文書エディタ」ウィンドウを使用して、ターゲット設定機能を JHTML または JSP (JavaServer Page) ファイルに埋め込みます。詳細は、『ATG Web Commerce Page Developer's Guide』を参照してください)。

注意: 複数のターゲット設定機能を使用して単一の Web ページを生成できます。たとえば、Quincy Funds デモでは、9 個の個別のターゲット設定機能を起動して、投資家のホームページ(investorhome.jsp)を生成します。

シナリオを使用したコンテンツとユーザーのマッチング

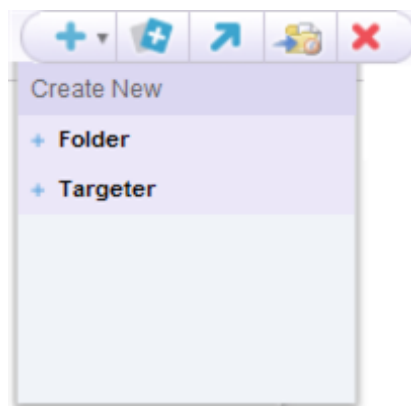
Scenarios モジュールを使用すると、2 種類の方法でコンテンツをユーザー・セグメントにマッチングさせることができます。前述のようにターゲット設定機能を作成することもできれば、シナリオを使用して基本的に同じ結果を実現することもできます。選択する方法は、シナリオが提供する高度な機能が必要かどうか、またはターゲット設定機能のわずかに単純な機能で自分の要件が満たされるかどうかによります。2 つの方法の

組合せを設定することもできます。ただし、シナリオは Business Control Center ではなく ACC を通じて作成します。詳細は、『ATG Web Commerce パーソナライゼーション・ガイド』を参照してください。

ターゲット設定機能の作成

この項では、適切なコンテンツを特定のユーザーに表示できるコンテンツ・ターゲット設定機能を作成する方法について説明します。

1. 「ホーム」ページから「Commerce Merchandising」→「ターゲット設定およびセグメンテーション」を選択します。
2. 新規ターゲット設定機能の作成およびバージョン設定を管理するプロジェクトの、名前と概要(オプション)を指定します。
3. 「表示」リストから「ターゲット設定機能」を選択します。
4. 「新規作成」アイコンをクリックし、「新規作成」→「ターゲット設定機能」を選択します。



5. 次に示す「一般」タブのフィールドに入力します。

名前: 新規ターゲット設定機能の名前を入力します。名前には空白を含めることができます。

摘要: 新規ターゲット設定機能の識別に役立つ摘要のテキストを入力します。

コンテンツ・ソース: 「コンテンツ・ソース」ドロップダウン・リストからリポジトリを選択します。選択するリポジトリによって、ターゲットとなるコンテンツ項目、コンテンツ・タイプおよびコンテンツ・プロパティが決まりますターゲット設定機能が適用されるのは、このリポジトリ内の項目のみです。

コンテンツ・タイプ: ターゲットとなるコンテンツのタイプを選択します。タイプは、コンテンツ・リポジトリ定義ファイル内の項目記述子タイプに対して定義されている項目のサブセットに対応します。各項目タイプは独自のプロパティを持ちます。詳細は、『ATG Web Commerce Repository Guide』を参照してください。

プロフィール・タイプ: このターゲット設定機能が適用されるユーザーのタイプを選択します。表示されるオプションは、システムで使用されているプロフィール定義ファイル内の項目記述子タイプで、該当の項目のサブタイプも含まれます。

「作成」ボタンをクリックしてターゲット設定機能を作成した後に、これらの設定を編集することはできません。「ルール」タブへの切替えによっても、このターゲット設定機能の設定が確定されます。

ターゲット設定機能を複数サイト環境で作成しており、サイト固有ルールの「表示対象」フィルタを指定する場合は、必ずサイト・メンバーシップを持つ複数サイト・リポジトリ項目である「コンテンツ・ソース」、およびサイト・メンバーシップを持つ「コンテンツ・タイプ」を選択してください。サイト・メンバーシップの詳細は、『[ATG Web Commerce Multisite Administration Guide](#)』の「サイト固有のリポジトリ・データ(サイト・メンバーシップ)」を参照してください。「表示対象」フィルタの詳細は、「[表示対象フィルタの作成](#)」を参照してください。

6. デフォルトでは、ターゲット設定機能は拡張子 `.properties` を持つファイルとして `/atg/registry/RepositoryTargeters` に格納されます。新規ターゲット設定機能が保存されるフォルダを変更するには、「親の選択」をクリックして、新規フォルダを指定します。
注意: ターゲット設定機能を作成した後に場所を変更する必要がある場合は、「移動」アイコンを使用します。
7. 「一般」タブのフィールドへの入力完了したら、「作成」をクリックします。「参照」タブに新規ターゲット設定機能が表示され、アセットとしてプロジェクトに追加されます。
8. 「ルール」をクリックして「ルール」タブを表示し、次の「[ターゲット設定機能ルールの定義](#)」の手順に従います。

最初に「作成」ボタンをクリックせずにそのまま「ルール」タブを使用することもできます。ただし、その場合、それまでの変更は保存されないため、セッションが終了したり UI の別の部分にナビゲートすると、ターゲット設定機能が失われます。「作成」を選択すると新規ターゲット設定機能が保持されるため、いつでもその定義のプロセスを続行できます。

ターゲット設定機能ルールの定義

新規コンテンツ・ターゲット設定機能を追加するたび、選択されたコンテンツをターゲット対象者に配信するルールを設定する必要があります。たとえば、Weekend Features フォルダのコンテンツを毎週金曜日にすべてのユーザーに表示するルールを作成できます。

ターゲット設定機能とサイトのパフォーマンスについて: パersonナライズ・モジュールは、ターゲット設定機能の各処理の後に表示されるコンテンツをキャッシュ(一時的に格納)します。この動作によって、ターゲット設定機能の基準に一致する次の訪問者に対して、コンテンツがより早く表示されます。このキャッシュ・メカニズムは、ターゲット設定機能ルールに、訪問者ごとに多くの可能な値があるプロファイルまたは要求プロパティ(時刻など)が含まれる場合は、効果的ではありません。たとえば、作成するターゲット設定機能に `interests` という複数の値を持つプロパティが含まれており、可能な値の組合せが訪問者ごとに多数存在する場合(「スキー、ゴルフ、ホッケー」、「サイクリング、ゴルフ」、「サッカー、テニス、水泳」)、パーソナライズ・モジュールが以前の要求でキャッシュされたページ結果を使用できる可能性は低く、ターゲット設定機能の処理は時間がかかります。

注意: 複数サイト環境で操作している場合は、「[複数サイト環境でのターゲット設定機能ルールの定義](#)」に進んでください。

ターゲット設定機能のビジネス・ルールの定義

コンテンツ・ターゲット設定機能のビジネス・ルールを設定または編集するには

1. ターゲット設定機能の「ルール」タブを表示します。
2. 「ルール・セット」パネルの「表示」または「非表示」をクリックします。
 - 「表示」では、訪問者に表示するコンテンツを指定できます。
 - 「非表示」では、訪問者に表示しないコンテンツを指定できます。

注意: 表示ルールが評価されてから非表示ルールが評価されます。

「ルール・セット」パネルには、ルールとデフォルト値が表示されます。たとえば、「表示」をクリックすると、次のフィールドが表示されます。

Rule Set	
Insert Action: Show Hide	
Show	
This Content	All items
To These People	Everyone
At These Times	Always
Under These Conditions	Always

3. ルールのコンテンツ、個人、時間および環境条件を設定するには、これらを使用します。手順については、次の項を参照してください。
 - [コンテンツ条件の設定](#)
 - [対象個人条件の設定](#)
 - [日時条件の設定](#)
 - [環境条件の設定](#)
4. 同じルールに別の「表示」セクションを追加するには、「表示」ボタンをクリックしてフォームに入力します。
5. 別のルール・セットを追加するには、「ルール・セットの追加」(前述の図には表示されていません)を選択し、手順 2~4 を繰り返します。複数のルール・セットの作成の詳細は、「[複数のルール・セットの作成および優先順位付け](#)」を参照してください。
6. ターゲット設定機能ルールの設定が終了したら、「保存」(または「作成」)をクリックします。
7. 「[プロジェクトの基本](#)」に示されている手順に従って、「作成者」タスクを完了とマークし、プロジェクトを次のタスク(通常は「承認」)に進めます。すべてのタスクが完了するとプロジェクトを配置でき、新しいターゲット設定機能がライブ・サイトで有効になります。

適切なサイト・ページへのターゲット設定機能の埋込みの詳細は、『[ATG Web Commerce Page Developer's Guide](#)』を参照してください。

コンテンツ条件の設定

コンテンツ条件を使用して、なんらかの基準に一致するコンテンツ項目を検索します。次に例を示します。

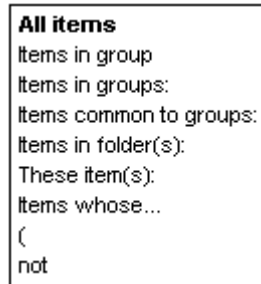
```
Show this content:
  items whose keywords includes Hiking
```

AND 文と OR 文を使用して、複数のコンテンツ条件を結合できます。

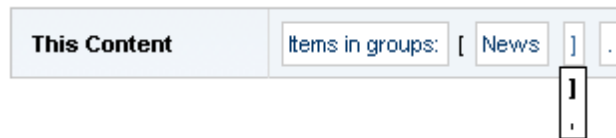
ATG 環境に Core Commerce が含まれている場合、表示できるコンテンツには、設定したすべての販促が含まれます。販促の詳細は、『[マーチャンダイジング・ガイド](#)』を参照してください。

ルールのコンテンツ条件を設定するには

1. 「ルール・セット」パネルの「このコンテンツ」フィールドをクリックします。次のオプションが表示されます。

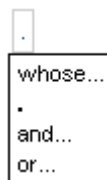


2. 表示するコンテンツまたは表示しないコンテンツを指定します。
 - 選択されたリポジトリに格納されているすべてのコンテンツ項目を表示する(または表示しない)場合は、「**All items**」をクリックします。
 - 「コンテンツ・グループ」ウィンドウで作成した特定のコンテンツ・グループの項目を表示するまたは表示しない場合は、「**Items in group(s)**」をクリックします。追加するグループを選択します。コンテンツ・ソースとコンテンツ・タイプが、このターゲット設定機能の「一般」タブで指定されたコンテンツ・ソースとコンテンツ・タイプに一致するグループのみが、オプションとして表示されることを忘れないでください。
複数のグループがあり、2 つ以上を指定する必要がある場合は、最初のグループを入力してその後のカッコ記号をクリックし、カンマ・オプションを選択します。



別のグループを指定できます。これを必要なだけ繰り返します。

別の基準を追加して、この文をさらに修飾することもできます(例: **Items in Group Book Reviews whose Author is Smith**)。これを行うには、示されているように語句の末尾のピリオドをクリックし、「**Whose**」を選択します。



次の「Items whose」オプションの指示に従います。

- 複数のグループに出現する項目を指定する場合は、「**Items Common to Groups**」を選択し、基準として使用するグループを入力します。再びカッコをクリックしてカンマ・オプションを選択し、複数のグループを入力します。
- 特定のリポジトリ・フォルダのすべての項目を表示するまたは表示しない場合は、「**Items in folder(s)**」をクリックします。表示されるアセット・ピッカーを使用して、目

的のフォルダを指定します。詳細は、「[アセット・ピッカーによる項目の選択](#)」を参照してください。

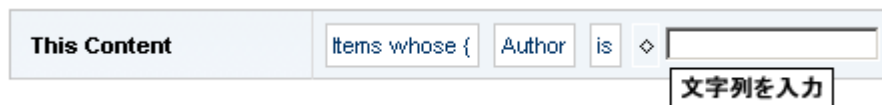
前述のように、語句の末尾のピリオドをクリックし、「Whose」を選択することによって、別の基準を追加してこの文をさらに修飾することもできます

次の「Items whose」オプションの指示に従います。

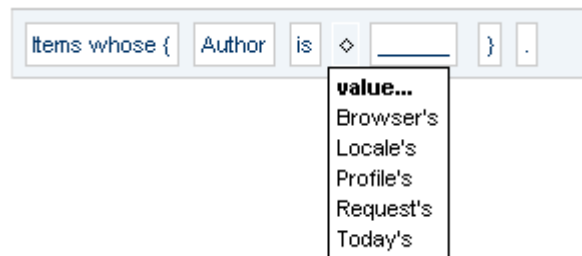
- 特定のコンテンツ項目を表示するまたは表示しない場合は、「**these items**」をクリックします。アセット・ピッカーを使用して、含める個々のコンテンツ項目を選択します。「Whose」オプション（次を参照）を選択して追加の基準を定義できます。
- 特定のコンテンツ・プロパティに基づいて項目を表示するまたは表示しない場合は、「**Items whose**」をクリックします。このオプションを選択すると、複数のフィールドが表示されて、使用するプロパティ、比較演算子および値を選択できます。



選択できるプロパティは、操作しているリポジトリによって異なります。比較演算子と値のドロップダウン・リスト内の選択肢は、選択するプロパティによって変わります。プロパティの値が限られている場合、値リストには選択できるすべての項目が表示されます。プロパティの値の個数に制限がない場合は、次に示すように独自の値をリストに直接入力できます。要求される値タイプを示す指示（たとえば、「文字列の入力」）が、テキスト・フィールドの下に表示されます。



事前に設定されているコンテンツ・プロパティの値や、自身で入力する任意の値に加えて、値リストを使用して、次の表に示されている環境オプションを指定することもできます。これらを表示するには、次に示すようにひし形をクリックします。



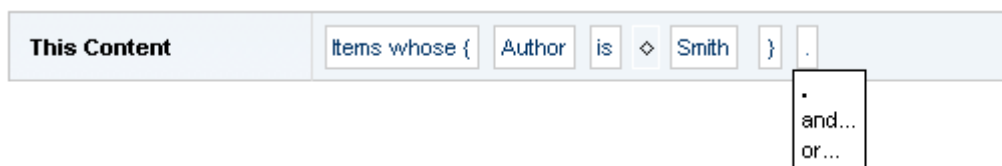
次の表で説明しているオプションを使用すると、選択されているコンテンツ・プロパティの値を、特定の環境条件に対してテストすることによって設定できます。

Browser	ブラウザ関連のプロパティを定義に追加するには、「Browser」を選択します。例: <i>…items whose absolutePath is Browser’s request.remoteHost</i>
Locale	ロケール関連のプロパティを追加するには、「Locale」を選択します。例: <i>…items whose language is Locale’s acceptLanguage</i> 注意: ロケール・プロパティは、訪問者のブラウザの言語設定に応じてコンテンツを異なる言語で表示する、ローカライズされた Web サイトで操作している場合に関係します。国際化およびローカライゼーションの詳細は、『 ATG Web Commerce Platform Programming Guide 』を参照してください。
Profile	別のユーザー関連のプロパティを追加するには、「Profile」を選択します。例: <i>…items whose keywords includes Person’s Actual Investment Goal</i>
Request	HTTP 要求関連のプロパティを追加するには、「Request」を選択します。例: <i>…items whose relativePath is Request’s requestURI</i>
Today	時間関連のプロパティを追加するには、「Today」を選択します。例: <i>…items whose lastModified is Today’s date</i>

Web サイトで作業しているアプリケーション開発者は、パーソナライズ・モジュールで TargetingSourceMap サービスを設定することによって、このリストに他のオプションを追加できます。詳細は、『[ATG Web Commerce Personalization Programming Guide](#)』の対象サービスの設定に関する項を参照してください。

これらのオプションの 1 つを選択すると、ドロップダウン・リストを含む別のフィールドが表示され、関連プロパティの選択が求められます。選択できるプロパティは、値リストから選択するオプションによって異なります。

- 別のコンテンツ条件を追加する場合は、次に示すように語句の末尾のピリオドをクリックし、必要に応じて「および」または「または」を選択します。



- ターゲット対象者を指定する必要があります。次の「[対象個人条件の設定](#)」を参照してください。

対象個人条件の設定

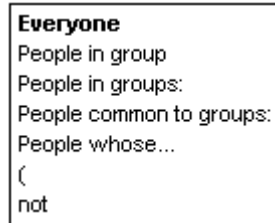
ユーザー・プロファイルのプロパティに対して対象個人条件がテストされ、ルールを適用する必要があるかどうかを確認されます。次に例を示します。

```
Show this content:
  items in group NewNYinfo
to these people:
  people whose Registration date is after 03/31/2004
```

AND 文と OR 文を使用して、複数の対象個人条件を結合できます。

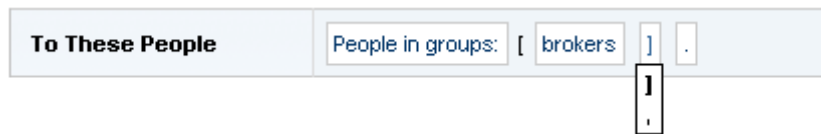
ルールの対象個人条件を設定するには

1. 「ルール・セット」パネルの「対象個人」フィールドをクリックします。次のオプションが表示されます。



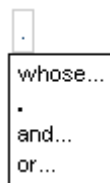
2. ターゲット対象者に含める(または除外する)個人を指定します。
 - すべてのユーザーを含める(または除外する)場合は、「everyone」をクリックします。
 - 特定のユーザー・セグメントの個人を含めるまたは除外する場合は、「People in group(s)」をクリックします。次に、「Choose a group」を選択して、システム内のユーザー・セグメントのリストを表示します。

複数のセグメントがあり、2 つ以上を指定する必要がある場合は、最初のセグメントを入力してその後のカッコ記号をクリックし、カンマ・オプションを選択します。



別のセグメントを指定できます。これを必要なだけ繰り返します。

別の基準を追加して、この文をさらに修飾することもできます(例: **People in Group Members whose Registration Date is before Jan 1, 2000**)。これを行うには、示されているように語句の末尾のピリオドをクリックし、「Whose」を選択します。



次の「People whose」オプションの指示に従います。

- 複数のセグメントに属するユーザーを指定する場合は、「**People Common to Groups**」をクリックし、基準として使用するセグメントを入力します。再びカッコをクリックしてカンマ・オプションを選択し、複数のセグメントを入力します。

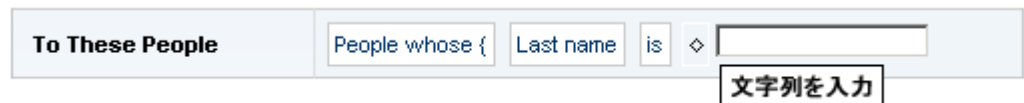
別の基準を追加して、この文をさらに修飾することもできます。これを行うには、前述のように語句の末尾のピリオドをクリックし、「Whose」を選択します。

注意: この場合の「Whose」の後の基準は、セグメントではなく個人に適用されます(例: **People Common to Groups New Members and West Coast Users whose Date of Birth is Today**)。

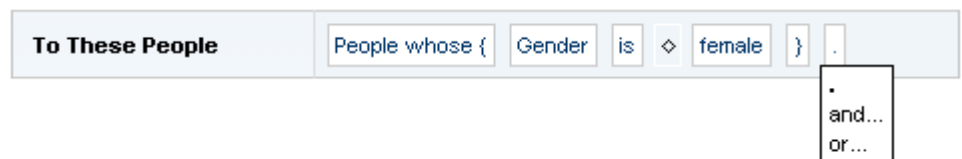
- 特定のプロフィール・プロパティに基づいて個人を含めるまたは除外する場合は、「People whose...」をクリックします。このオプションを選択すると、次に示すように複数のフィールドが表示されて、グループを定義するためのプロフィール・プロパティ、比較演算子および値を選択できます。



選択できるプロパティは、ATG 環境で作成されたプロフィール・リポジトリから取得されます(詳細は、『[ATG Web Commerce Personalization Programming Guide](#)』の「プロフィール・リポジトリの設定に関する項」を参照してください)。比較演算子と値のフィールドの選択肢は、選択するプロフィール・プロパティによって変わります。プロパティの値が限られている場合、値リストには選択できるすべての項目が表示されます。プロパティの値の個数に制限がない場合は、独自の値をフィールドに直接入力できます。要求される値タイプを示す指示(たとえば、「文字列の入力」)が、次に示すようにテキスト・フィールドの下に表示されます。



- 別の対象個人条件を追加する場合は、次に示すように語句の末尾のピリオドをクリックし、必要に応じて「および」または「または」を選択します。



次に、コンテンツを表示する日時条件を設定します。詳細は、次の「[日時条件の設定](#)」を参照してください。

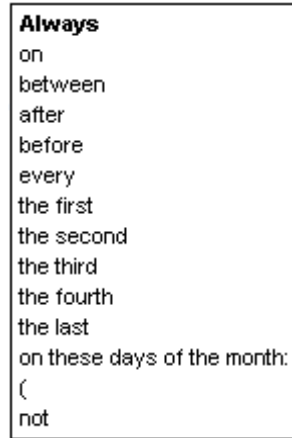
日時条件の設定

現在の時刻に対して日時条件がテストされ、ルールを適用する必要があるかどうかを確認されます。次に例を示します。

```
Show this content:
  items in group newMemberFeatures
To these people:
  people in group NewMembers
At these times:
  every Mon, wed, Fri between 9:00am and 9:00pm
  between 01-Jan-2007, 12:00am and 31-Jan-2007,11:59pm
```

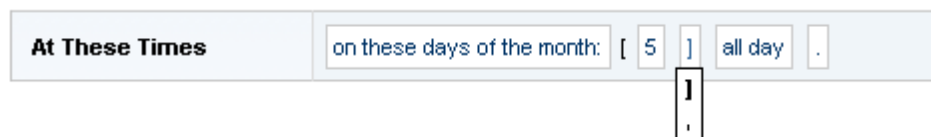
ルールの日時条件を設定するには

1. 「ルール・セット」パネルの「対象時刻」フィールドをクリックします。次のオプションが表示されます。



2. 使用する日時条件を設定します。
 - ユーザーがページを表示するときには常にコンテンツを表示する場合は、「Always」をクリックします。
 - 特定の日付にコンテンツを表示するまたは表示しない場合は、「On」をクリックします(例: On Dec 19, 2006)。続けて、コンテンツをその日終日表示するのか、特定の時間帯に表示するかを選択できます。
 - 特定の期間にコンテンツを表示するまたは表示しない場合は、「Between」をクリックします。
 - 特定の日付以降(終了日はない)にコンテンツを表示するまたは表示しない場合は、「After」をクリックします(例: after Dec 19, 2006, 12:00:00 AM)。
 - 現時点から特定の日付までコンテンツを表示するまたは表示しない場合は、「before」をクリックします(例: before Dec 18, 2006, 11:59:00 PM)。
 - 毎月の特定の曜日にコンテンツを表示するまたは表示しない場合は、「Every」をクリックします(例: Every Monday of Every Month between 9 AM and 12 PM)。
 - 毎月の特定の平日にコンテンツを表示するまたは表示しない場合は、「the first」、「the second」、「the third」、「the fourth」または「the last」をクリックします(例: The Last Tuesday of Every Month between 9:00am and 11:59pm)。
 - 各月の同じ日にコンテンツを表示するまたは表示しない場合は、「on these days of the month」をクリックします(例: On These Days of the Month: 5, 10, 15, 20, 25)。

日付を複数指定する場合は、次に示すように最初の日付の後のカッコをクリックしてカンマ・オプションを選択します。



表示されるフィールドを使用して、追加の日付を指定できます。これを必要なだけ繰り返します。

次に、ルールその他の環境条件を設定できます。詳細は、次の「[環境条件の設定](#)」を参照してください。

環境条件の設定

環境条件は、必ずしもユーザー・プロフィールや現在時刻に関係しないプロパティが対象です。たとえば、訪問者が使用している Web ブラウザのタイプはプロフィールに含まれていない可能性があります。訪問者がサイトにアクセスするときにその情報は有効となり、その後のターゲット対象で使用できます。次に例を示します。

```
Show this content:
  items whose platform is Macintosh
Under these conditions:
  if Browser's using Macintosh system is true
```

ルールの環境条件を設定するには

1. 「ルール・セット」パネルの「対象条件」フィールドをクリックします。次のオプションが表示されます。

Always
Browser's
Locale's
Profile's
Request's
Today's
(
not

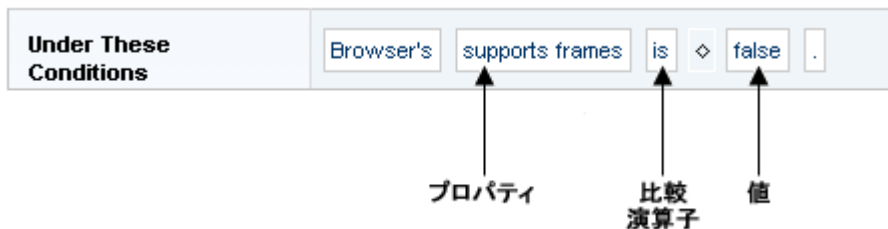
2. 次の表で説明しているオプションを使用します。

Browser	ブラウザ関連の条件を設定するには、「 Browser 」を選択します(例: Browser's supports cookies is true)。
Locale	ロケール関連の条件を設定するには、「 Locale 」を選択します(例: if Locale's defaultRequestLocale is en_ US)。 注意: ロケール・オプションは、訪問者のブラウザの言語設定に応じてコンテンツを異なる言語で表示する、ローカライズされた Web サイトで操作している場合に関係します。国際化およびローカライゼーションの詳細は、『 ATG Web Commerce Platform Programming Guide 』を参照してください。
Profile	個人に関連する条件を設定するには、「 Profile 」を選択します(例: if Profile's Home address's State is NY)。

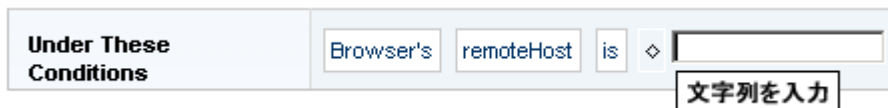
Browser	ブラウザ関連の条件を設定するには、「 Browser 」を選択します(例: Browser's supports cookies is true)。
Request	HTTP 要求関連の条件を設定するには、「 Request 」を選択します(例: if Request's loggingInfo is false)。 開発者向けの注意: Business Control Center では、Request プロパティのドロップダウン・リストにフォーム・パラメータは表示されません。ターゲット設定ビジネス・ルールにフォーム要求パラメータを含める必要がある場合は、パーソナライズ・モジュールで要求をスコープとするフォーム・ハンドラ・オブジェクトを作成し、それを TargetingSourceMap サービスに追加することで対処できます (TargetingSourceMap サービスの設定の詳細は、『 ATG Web Commerce Personalization Programming Guide 』の対象サービスの設定に関する項を参照してください)。TargetingSourceMap に新しいフォーム・ハンドラが追加されると、Business Control Center のフォーム・ハンドラ・プロパティのドロップダウン・リストにすべてのオブジェクトのプロパティが表示されます。ターゲット設定ビジネス・ルール用にそれらを選択できます。
Today	日時関連の条件を設定するには、「 Today 」を選択します(例: Today's date is 10/20/2006)。

Web サイトで作業しているアプリケーション開発者は、パーソナライズ・モジュールで TargetingSourceMap サービスを設定することによって、このリストに他の環境オプションを追加できます。詳細は、『[ATG Web Commerce Personalization Programming Guide](#)』の対象サービスの設定に関する項を参照してください。

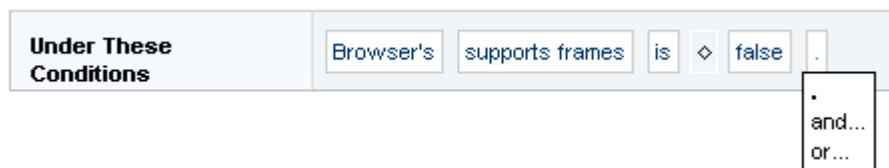
これらのいずれかのオプションを選択すると、追加のフィールドが表示されて(次の図を参照)、使用するプロパティ、比較演算子および値を選択できます。



比較演算子と値のドロップダウン・リスト内の選択肢は、選択するプロパティによって変わります。プロパティの値が限られている場合、値リストには選択できるすべての項目が示されます。プロパティの値の個数に制限がない場合は、独自の値をフィールドに直接入力できます。要求される値タイプを示す指示(たとえば、「文字列の入力」)が、テキスト・フィールドの下に表示されます。



3. 別の環境条件を追加する場合は、次に示すように語句の末尾のピリオドをクリックし、必要に応じて「And」または「Or」を選択します。



複数のルール・セットの作成および優先順位付け

ビジネス・ルールは、コンテンツ・ターゲット設定機能ウィンドウの「ルール」タブに表示されている順序で評価されます。ルール間に分岐を挿入すると、異なるルール・セットが作成されます。セット内でルールがグループ化されている場合、それらを上下に移動して、評価される順序を変更できます。複数のルール・セットを使用して、特定の条件が失敗したときにデフォルトのコンテンツを表示することもできます。

たとえば、次のターゲット設定機能には3つのルール・セットが含まれています。

```
Show this content:
  items whose Target Audience includes Person's Strategy
  and whose Language starts with Locale's localestring
to these people:
  people whose User type is investor
-----If no items were selected, try the following rules-----
Show this content:
  items whose Target Audience includes guests
  and whose Language starts with Locale's localestring
to these people:
  people whose User type is guest
-----If no items were selected, try the following rules-----
Show this content:
  items whose Target Audience includes anybody
  and whose Language starts with Locale's localestring
to everyone
```

最初のセットで結果が生成されない場合、2番目のセットの表示ルールが使用されます。2番目のセットでも結果が生成されない場合、3番目のセットの表示ルールが使用されます。

注意: ルールを作成する場合は、ルールをルール・セットで編成する必要があります。ルールを後でセットに分割することはできません。

ルール・セットを作成するには

1. 「ルール」タブの下部にある「ルール・セットの追加」ボタンをクリックします。ルール・リストの下に次のルール分岐が表示されます。


```
-----If no content was selected, try the following rules-----
```
2. 新規ルール・セットのルールを設定します(詳細は、「[ターゲット設定機能ルールの定義](#)」を参照してください)。「ルール・セット」タイトル・バーの「上に移動」または「下に移動」アイコンをクリックして、ルール・セットを移動できます。



複数サイト環境でのターゲット設定機能ルールの定義

コンテンツ・ターゲット設定機能の基本的定義の構成は、複数サイト環境においても、未登録サイトが1つしかない環境であるため、同じです。しかし、複数サイト環境では、サイトまたはサイト・グループの上書きルールを指定できます。

複数サイト環境でコンテンツ・ターゲット設定機能ルールを定義するには、次の手順に従います。

1. ユーザー・セグメントの「ルール」タブを表示します。
2. デフォルト・ルールを作成します。ルール作成の詳細は、「[ターゲット設定機能ルールの定義](#)」を参照してください。1つのサイト・コンテンツについて表示しているときにこのコンテンツが他のサイトに関連するよう操作できるようにするフィルタを作成する場合の詳細は、「[表示対象フィルタの作成](#)」を参照してください。
各ターゲット設定機能には、デフォルト・ルールが必要です。デフォルト・ルールは、そのサイトにサイト上書きルールが存在しないかぎり、現在のサイト(サイト訪問者がいる)で実行されます。
3. (任意) サイト上書きルールを作成します。ルールのサイトを選択する場合の詳細は、「[サイト上書きルールの作成](#)」を参照してください。ルール作成の詳細は、「[ターゲット設定機能ルールの定義](#)」を参照してください。
4. (任意) サイト・グループ上書きルールを作成します。ルールのサイト・グループを選択する場合の詳細は、「[サイト・グループ上書きルールの作成](#)」を参照してください。ルール作成の詳細は、「[ターゲット設定機能ルールの定義](#)」を参照してください。
5. 手順の3と4を、作成する各々のサイトまたはサイト・グループ上書きルールで繰り返します。
6. ルールの定義が終了したら、「保存」(または「作成」)をクリックします。
7. 「[プロジェクトの基本](#)」に示されている手順に従って、「作成者」タスクを完了とマークし、プロジェクトを次のタスク(通常は「承認」)に進めます。すべてのタスクが完了するとプロジェクトを配置でき、新しいセグメントがライブ・サイトで有効になります。

複数サイト・ターゲット設定機能の例

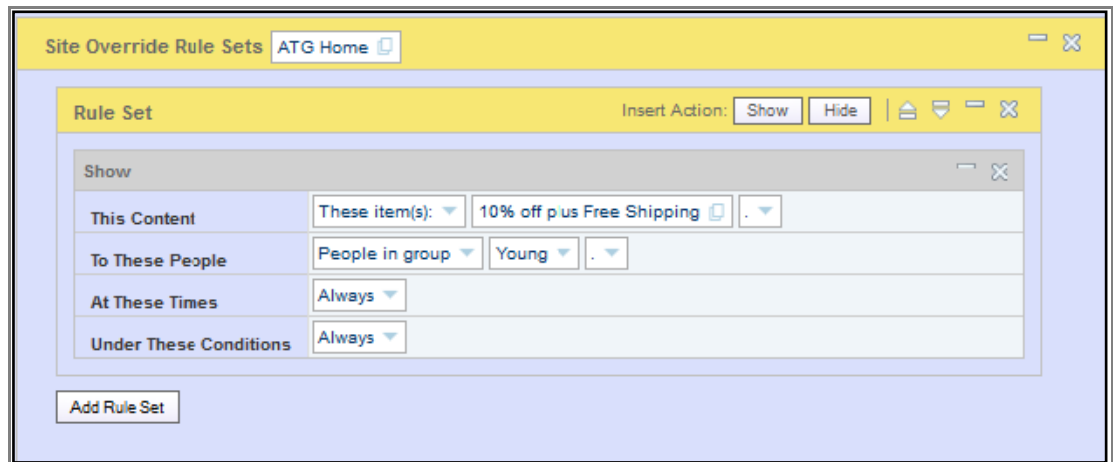
この項では、コンテンツ・ターゲット設定機能サイト上書きルールの例について説明します。

注意: この項の例は Oracle Commerce Reference Store をベースにしており、パーソナライズ・ルールを複数サイト環境で設定するためのベスト・プラクティスを説明するよう構成されています。Commerce Reference Store のインストールの詳細は、『[ATG Web Commerce Reference Store Installation and Configuration Guide](#)』を参照してください。Commerce Reference Store およびそのサンプル・ストアフロントの詳細は、『[ATG Web Commerce Reference Store Overview](#)』を参照してください。

Commerce Reference Store には、多数のターゲット設定機能が付属しています。この例で説明しているターゲット設定機能「CategoryPromotionContent2」は、顧客に様々な販促について知らせる様々な promotionalContent 項目を返します。返される promotionalContent 項目は、サイト・コンテキスト(顧客が現在アクセスしているサイト)およびカテゴリ・ツリー内の現在の顧客の場所に基づきます。

CategoryPromotionContent2 は、CRS Store US が使用するデフォルト・ルール・セットと、CRS Home サイトおよび CRS Store Germany サイトの上書きルール・セットを定義します。

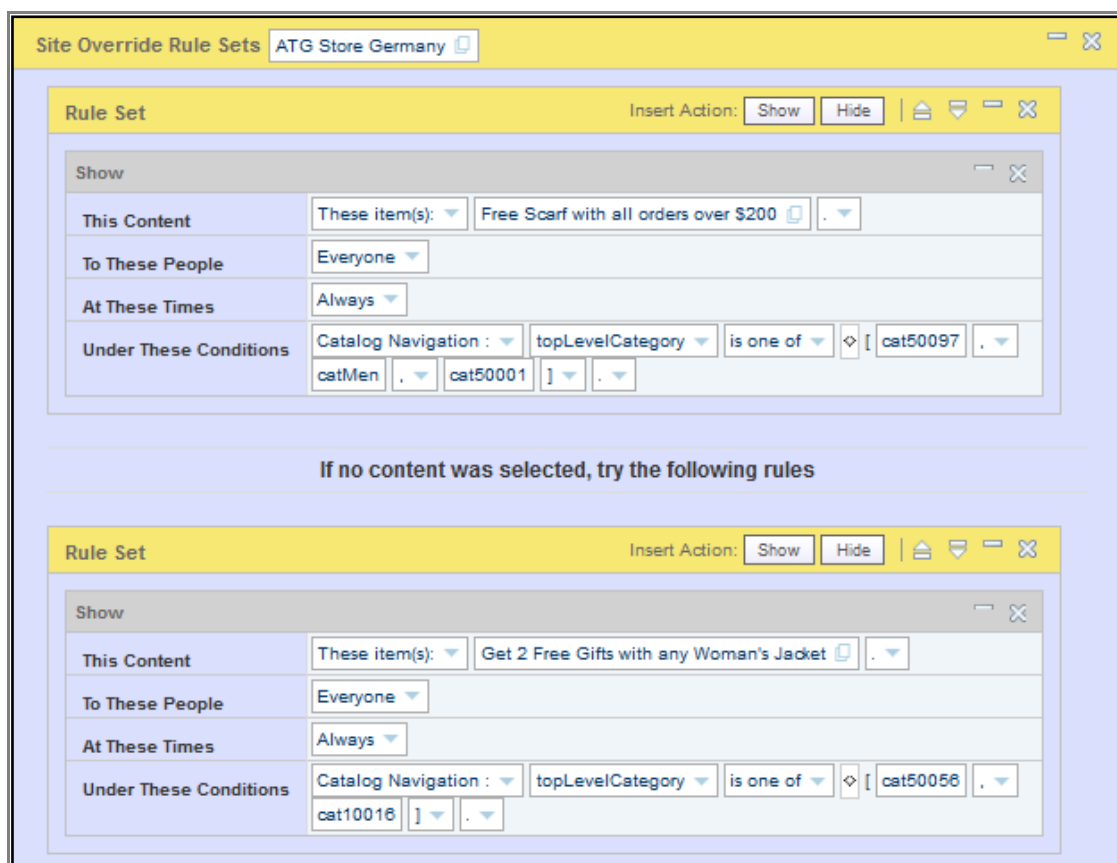
現在のサイトが CRS Home の場合、CategoryPromotionContent2 は 10%割引と送料無料の promotionalContent 項目を、顧客が「Young」ユーザー・セグメントに含まれる場合に表示します。次の図は、CRS Home サイトの上書きルール・セットを示しています。



現在のサイトが CRS Store Germany の場合、CategoryPromotionContent1 は次のように返します。

- 顧客が Shoes, Men、または Women カテゴリを閲覧している場合、「Free Scarf with all orders over \$200」の promotionalContent 項目を表示します。
- 顧客が Gift Shop または Home Accents カテゴリを閲覧している場合、「Get 2 Free Gifts with any Woman's Jacket」の promotionalContent 項目を表示します。

次の図は、CRS Store Germany サイトの上書きルール・セットを示しています。



現在のサイトが CRS Store US の場合、CategoryPromotionContent1 は次のように返します。

- 顧客が Home Accents、Men、または Women カテゴリを閲覧している場合、「Free Scarf with all orders over \$200」の promotionalContent 項目を表示します。
- 顧客が Shoes または Gift Shop カテゴリを閲覧している場合、「Get 2 Free Gifts with any Woman's Jacket」の promotionalContent 項目を表示します。

次の図は、デフォルト・ルール・セットを示しています。

Default Rule Sets

Rule Set Insert Action: Show Hide

Show

This Content	These item(s):	Free Scarf with all orders over \$200
To These People	Everyone	
At These Times	Always	
Under These Conditions	Catalog Navigation :	topLevelCategory is one of [catMen cat50001 cat10016]

If no content was selected, try the following rules

Rule Set Insert Action: Show Hide

Show

This Content	These item(s):	Get 2 Free Gifts with any Woman's Jacket
To These People	Everyone	
At These Times	Always	
Under These Conditions	Catalog Navigation :	topLevelCategory is one of [cat50058 cat50097]

索引

A

ACC のサポート, 3

B

Business Control Center. Business Control Center を参照

インストール, 2

開始, 2

ログイン要件, 2

あ

アセット

選択, 15

定義, 7

プレビュー, 19

プロジェクトからの削除, 9

プロジェクトへの追加, 8

編集, 9

アセットのバッチ編集, 13

い

移行

コンテンツ・グループ, 48

一般タブ, 25

移動

フォルダ, 27

う

上書きルール, 29

お

親の選択ボタン, 26

け

検索タブ, 13

こ

コンテンツ, パーソナライズ, 51

コンテンツ・グループ

概要, 23, 43

削除, 24, 49

作成, 43

デフォルト・フォルダ, 26

表示, 25

複数サイト・ルール, 47

複数サイト例, 48, 64

複製, 24

ルールの再利用, 48

コンテンツ・ターゲット設定機能. ターゲット設定機能を参照

さ

サイト上書きルール, 29

サイト・グループ上書きルール, 29

サイト選択

実行, 30

サイト・フィルタ, 31

競合回避, 32

再利用

コンテンツ・グループ, 48

参照タブ, 24

し

実稼動サイトへの項目配置, 10

実行

サイト選択, 30

シナリオ

- コンテンツ・ターゲット設定の使用, 51
- 編集, 1
- 処理アイコン, 24

す

- スロット, 編集, 1

せ

セグメント

- 概要, 23, 35
- 削除, 41
- 作成, 35
- デフォルト・フォルダ, 26
- ルールの定義, 37

そ

- 組織, 検索, 13

た

- ターゲット設定インタフェース, 23

ターゲット設定機能

- Browser 条件, 61
- Locale 条件, 61
- Request 条件, 61
- Today 条件, 61
- 概要, 23, 51
- グループ化, 63
- サイト・パフォーマンス, 53
- 削除, 24
- 作成, 52
- 対象個人条件, 57, 61
- デフォルト・フォルダ, 26
- 日時条件, 59
- 表示, 25
- 複製, 24
- ルールの定義, 45, 53
- タスク, 完了, 10
- タスク処理メニュー, 24

て

- データベース, Personalization 機能の構成, 2

は

- バージョン設定, 定義, 7
- パーソナライズされたコンテンツ, コンテンツ・ターゲット設定機能を参照

ひ

- 表示対象フィルタ, 31
- 使用, 31
- 選択, 31

ふ

フォルダ

- 移動, 27
- 概要, 26
- 削除, 28
- 作成, 28
- 変更, 26

複数サイト・ルール

- 上書き, 29
- 概要, 28
- タイプ, 29
- デフォルト, 29
- 評価, 29

プレビュー

- アセット, 19

プレビュー機能

- 摘要, 19

プロジェクト

- アセットの追加, 8
- 完了, 10
- 既存を開く, 12
- 作成, 7
- 定義, 7

プロジェクト・タブ, 24

プロファイル・グループ, セグメントを参照

ほ

- ホームページ, ホームページを参照
- ホームページ, 5

ゆ

- ユーザー・セグメント, セグメントを参照
- 削除, 24
- 表示, 25
- 複数サイト・ルール, 39, 47, 64

複数サイト例, 40
複製, 24
ユーザー・プロフィール, 検索, 13

る

ルール
サイト上書き, 29
サイト・グループ上書き, 29
ターゲット設定機能, 53
複数サイト・コンテンツ・グループ, 47
複数サイト・タイプ, 29
複数サイト・ユーザー・セグメント, 39, 47, 64
ユーザー・セグメント, 37, 40, 45, 53
ルール・タブ, 25

れ

例
複数サイト・コンテンツ・グループ, 48, 64
複数サイト・ユーザー・セグメント, 40

ろ

ロール
検索, 13
必須, BCC の使用, 2
ログイン, 2

わ

ワークフロー, 編集, 1

